

小美玉市男女共同参画市民意識調査
結果報告書

令和6年8月

小美玉市

目次

I	調査の概要	1
1.	調査の概要	2
II	調査結果	3
1.	回答者の属性	4
2	男女平等に関する意識について	11
3	男女の生き方や家庭生活についておたずねします	19
4	就労・働き方について	26
5	社会活動について	35
6	生活の優先度について	40
7	ドメスティック・バイオレンス（DV）やハラスメント等について	42
8	男女共同参画社会について	48
9	自由回答	58

I 調査の概要

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、男女共同参画に関する市民意識を把握し、令和2年度から新しく策定する「第2次小美玉市男女共同参画推進計画」の基礎資料とすることを目的に実施しました。

(2) 調査方法

○調査対象者 市内に居住している18歳以上の市民2,000人（住民基本台帳から無作為抽出）

○調査方法 郵送による配布・回収（※インターネット経由の回答も併用）

○調査期間 令和6年6月20日(木)～令和6年7月8日(月)

（※締め切り後到着したものについては、令和6年7月25日分までは集計に反映）

(3) 回収結果

配布数	有効回収数	有効回収率
2,000	495 (郵送:277、WEB:218)	24.8%

[男女別回収結果]

	配布数	有効回収数	有効回収率
男性	1,000	217 (郵送:117、WEB:100)	21.7%
女性	1,000	272 (郵送:154、WEB:118)	27.2%

※性別の「回答しない」は4件、無回答は2件

(4) 調査結果の留意点

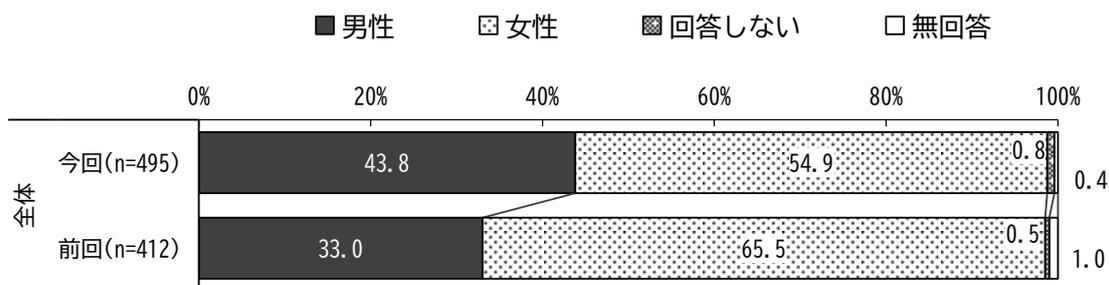
- ・グラフ・表に記載している「n=〇〇」は、各質問に対するサンプル数を示しています。
- ・比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため、百分率の合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答の設問については、母数を有効回答票数としているため、百分率の合計が100%を超えています。
- ・設問やグラフ、表中の回答選択肢は、短縮して表記している場合があります。
- ・サンプル数が少なく、的確に分析ができない場合、グラフ・表は参考までの掲載としています。
- ・本文のグラフには、前回調査結果（令和元年実施）を比較対象として載せているものがあります。

Ⅱ 調査結果

1. 回答者の属性

F1 あなたの性別をお答えください。

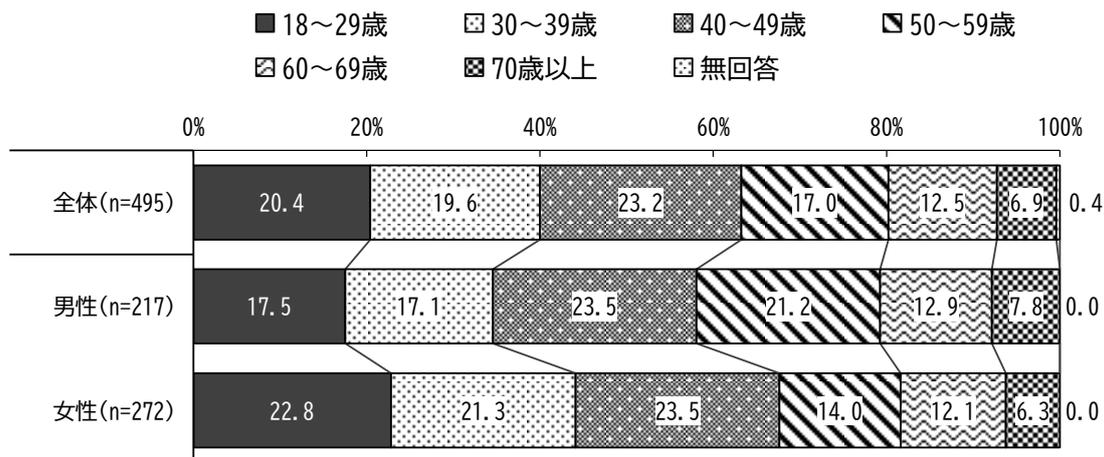
「男性」が43.8%に対し、「女性」が54.9%、「回答しない」が0.8%となっています。前回調査との比較では、男性の割合が増加しています。



F2 あなたの年齢をお答えください。

全体では、「40～49歳」が23.2%で最も多く、次いで「18～29歳」が20.4%、「30～39歳」が19.6%となっています。

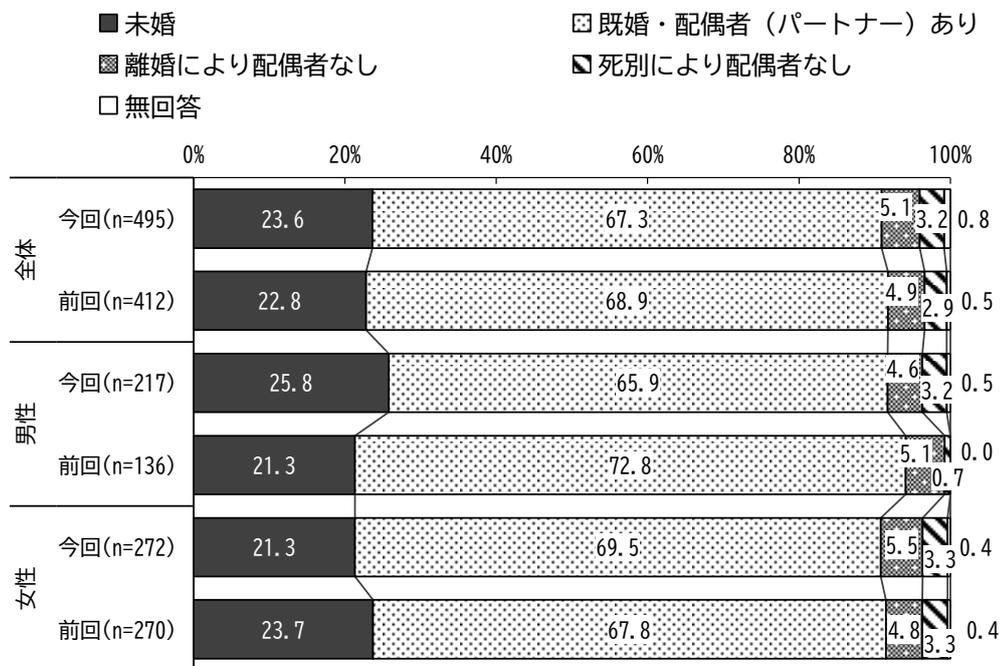
男女別の比較では、男性は「50～59歳」、女性は40歳未満の割合が比較的高くなっています。



F3 あなたは結婚されていますか。(事実婚も含みます。)

全体では、「既婚・配偶者（パートナー）あり」が67.3%で最も多く、次いで「未婚」が23.6%、「離婚により配偶者なし」が5.1%、「死別により配偶者なし」が3.2%となっています。前回調査との比較では、全体としては大きな変化はみられません。

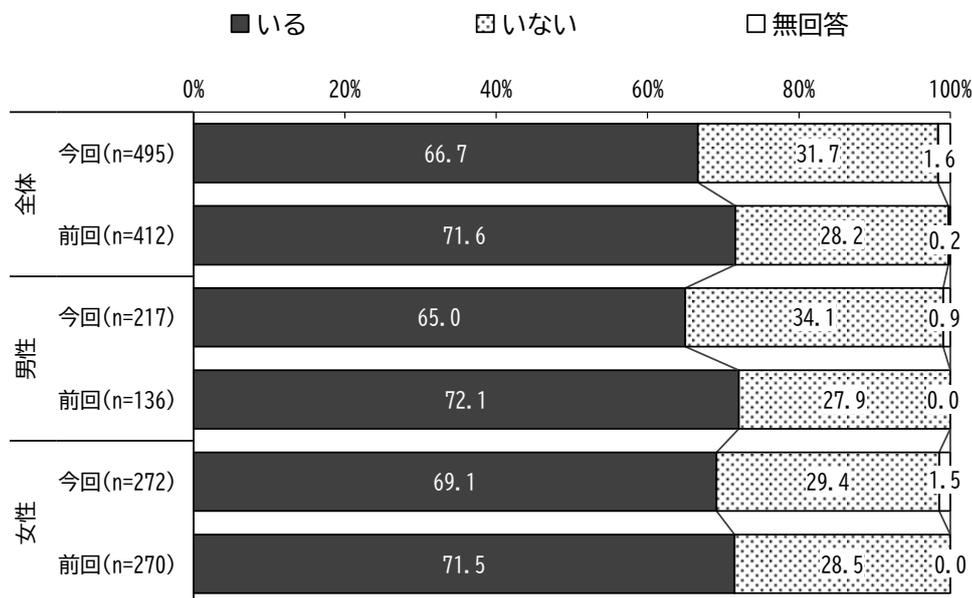
男女別の比較では、男性で「未婚」の割合が高くなっています。また、前回調査と比較すると、男性で未婚率が高まっている一方、女性の未婚率は微減となっています。



F4 あなたにはお子さんがおられますか。(既に独立している、別居等も含みます。)

全体では、「いる」が66.7%に対し、「いない」が31.7%となっています。前回調査との比較では、「いない」が増加しています。

男女別の比較では、女性より男性で「いない」の割合が高くなっています。また、前回調査と比較すると、特に男性で「いない」の増加が顕著です。

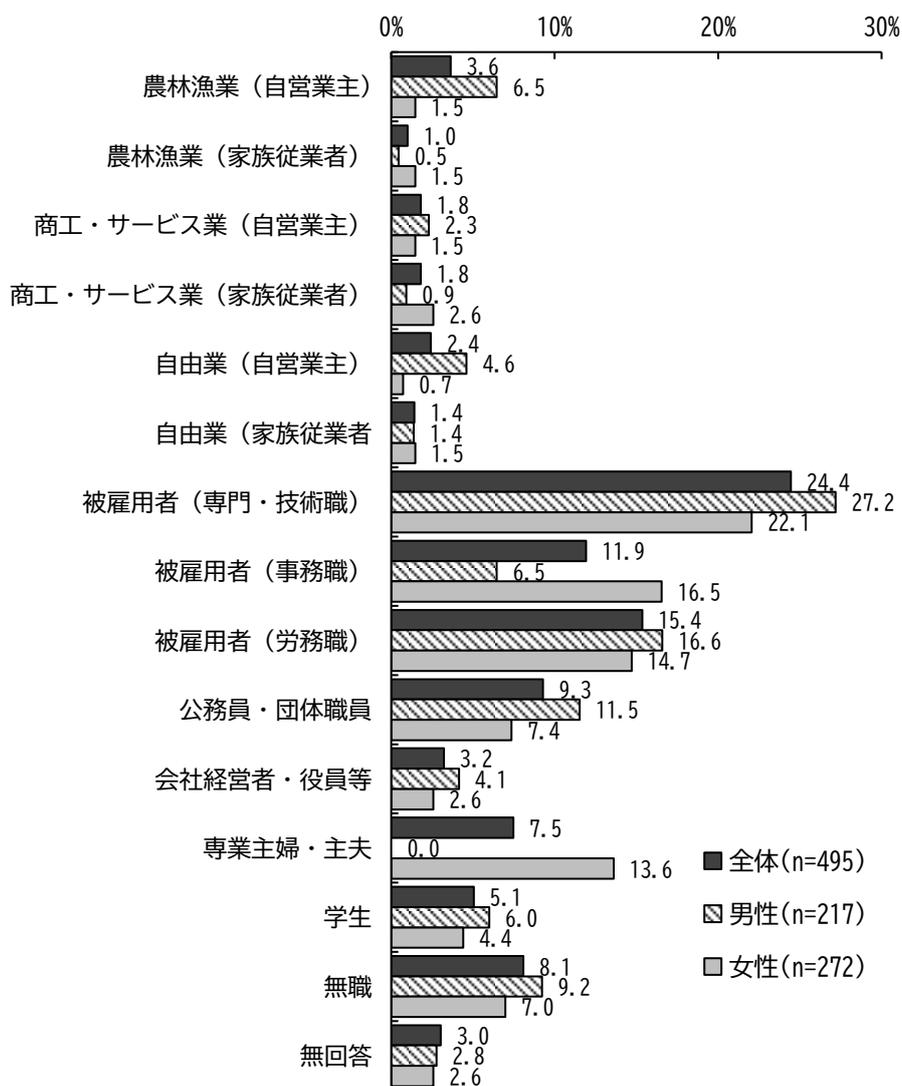


F5 あなたの職業についてお答えください。

①職業の内容

全体では、「被雇用者（専門・技術職）」が24.4%で最も多く、次いで「被雇用者（労務職）」が15.4%、「被雇用者（事務職）」が11.9%などとなっています。

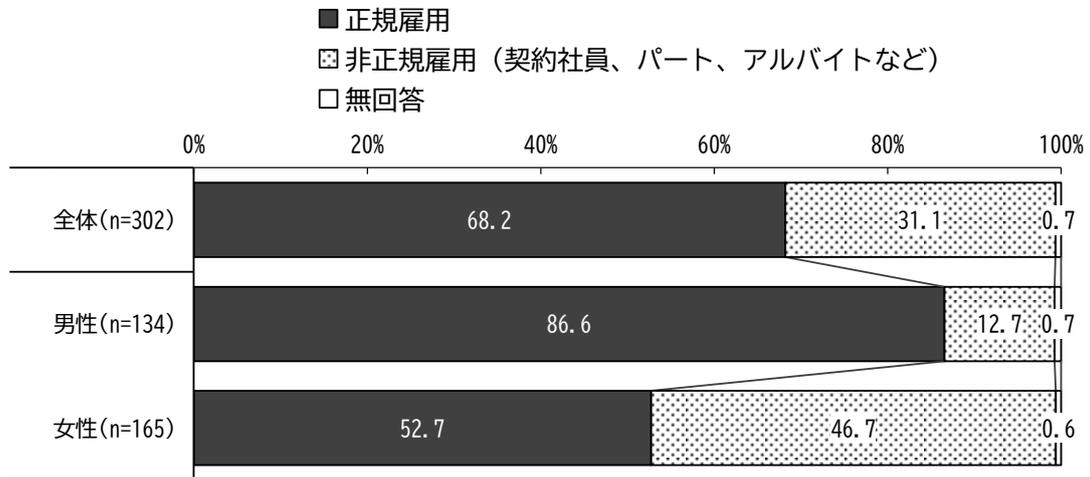
男女別の比較では、男性で「被雇用者（専門・技術職）」「公務員・団体職員」、女性で「被雇用者（事務職）」「専業主婦・主夫」などの割合が高くなっています。



②労働形態(F5①で「7」～「10」のいずれかに○をつけた方)

全体では、「正規雇用」が 68.2%に対し、「非正規雇用（契約社員、パート、アルバイトなど）」が 31.1%となっています。

男女別の比較では、男性で「正規雇用」、女性で「非正規雇用」の割合が高くなっています。

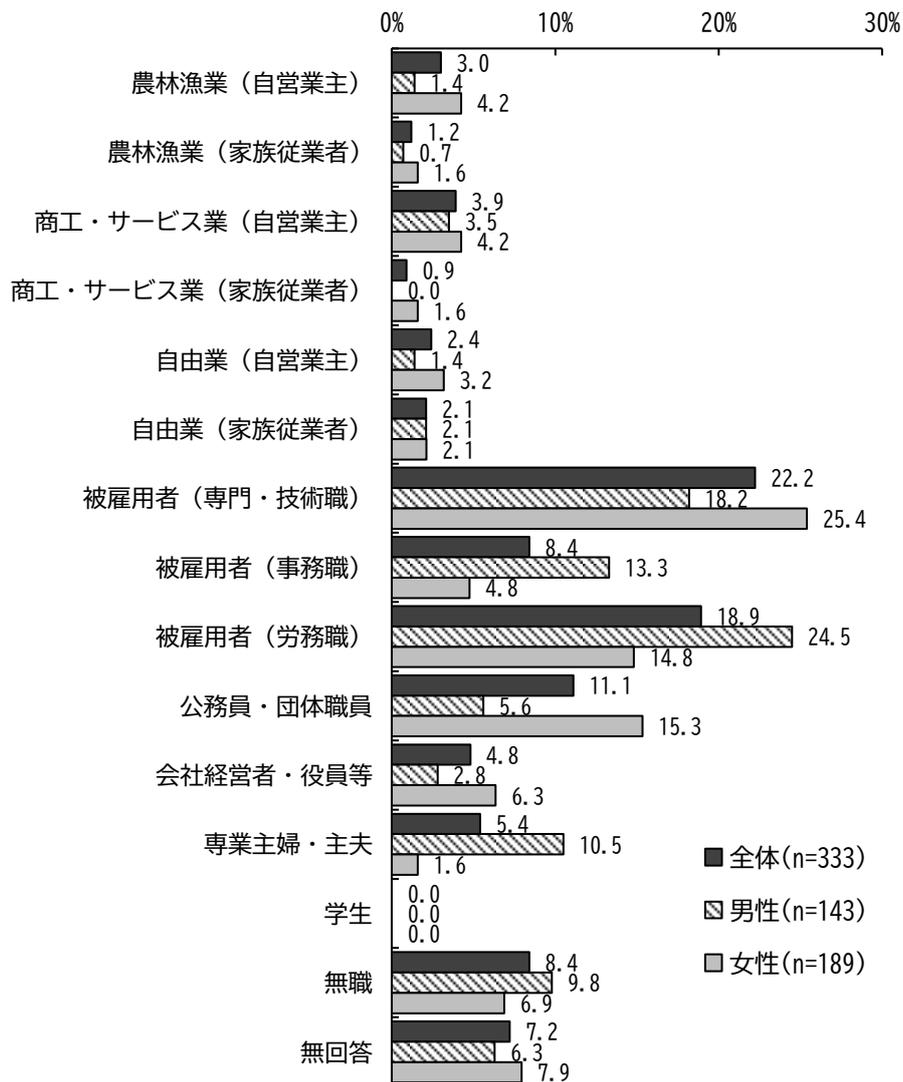


F6 F3で「2」に○をつけた方、あなたの配偶者（パートナー）の職業についてお答えください。

①職業の内容

全体では、「被雇用者（専門・技術職）」が22.2%で最も多く、次いで「被雇用者（労務職）」が18.9%、「公務員・団体職員」が11.1%となっています。

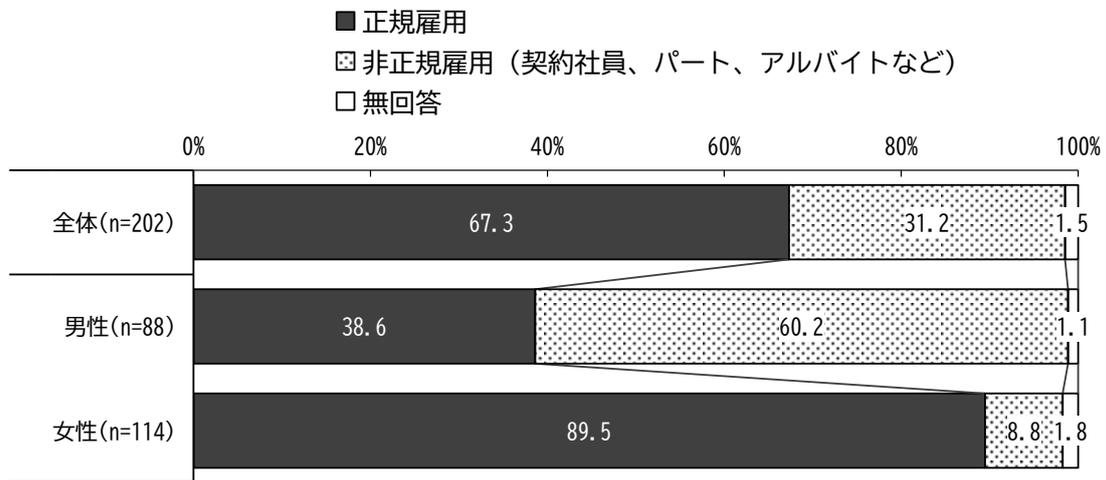
男女別の比較では、女性の配偶者等は「被雇用者（専門・技術職）」「公務員・団体職員」、男性の配偶者等は「被雇用者（労務職）」「専業主婦・主夫」などの割合が高くなっています。



②労働形態(F6①で「7」～「10」のいずれかに○をつけた方)

全体では、「正規雇用」が 67.3%に対し、「非正規雇用（契約社員、パート、アルバイトなど）」が 31.2%となっています。

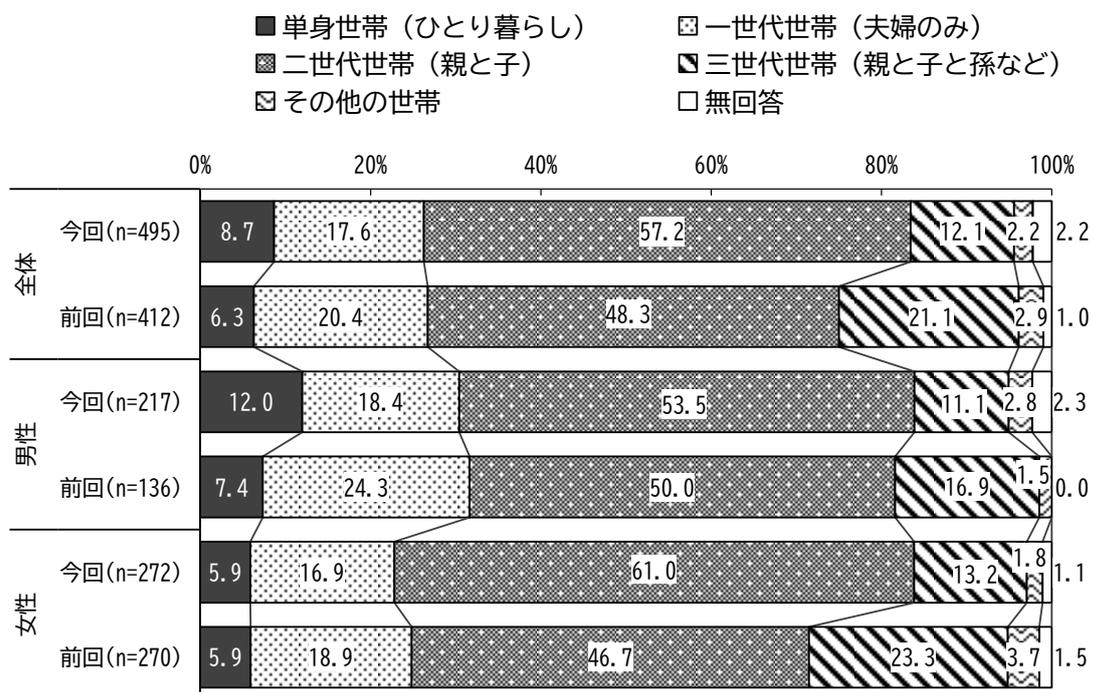
男女別の比較では、男性の配偶者等で「非正規雇用」、女性の配偶者等で「正規雇用」の割合が高くなっています。



F7 あなたの家族構成をお答えください。

全体では、「二世世代世帯（親と子）」が57.2%で最も多く、次いで「一世世代世帯（夫婦のみ）」が17.6%、「三世世代世帯（親と子と孫など）」が12.1%などとなっています。前回調査との比較では、「二世世代世帯（親と子）」の割合が大きく増加している一方、「三世世代世帯（親と子と孫など）」の減少が顕著となっています。

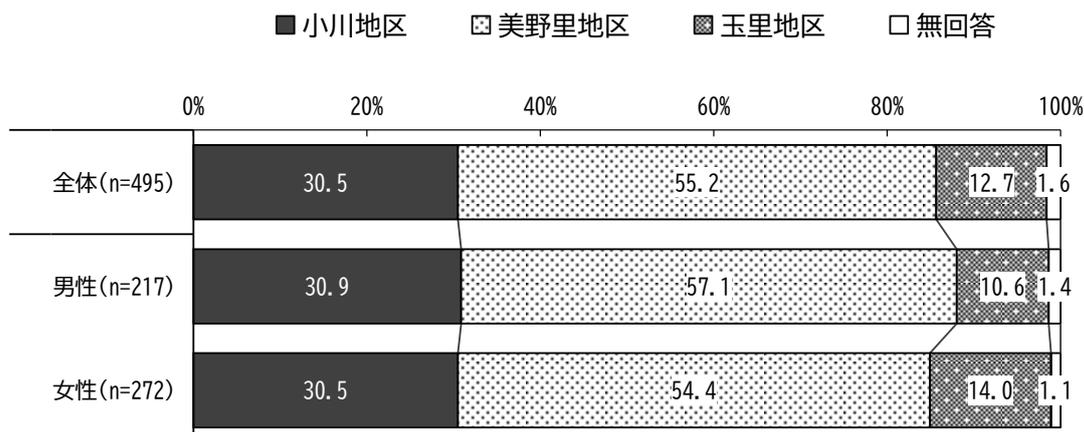
男女別の比較では、男性で「単身世帯（ひとり暮らし）」、女性で「二世世代世帯（親と子）」の割合が高くなっています。また、前回調査と比較すると、男性で「一世世代世帯（夫婦のみ）」「三世世代世帯（親と子と孫など）」が減少している一方、「単身世帯（ひとり暮らし）」が増加、女性で「三世世代世帯（親と子と孫など）」が減少している一方、「二世世代世帯（親と子）」が大きく増加しています。



F8 あなたのお住まいの地区はどこですか。

全体では、「美野里地区」が55.2%で最も多く、次いで「小川地区」が30.5%、「玉里地区」が12.7%となっています。

男女別の比較では、「美野里地区」で男性、「玉里地区」で女性の割合がやや高くなっています。

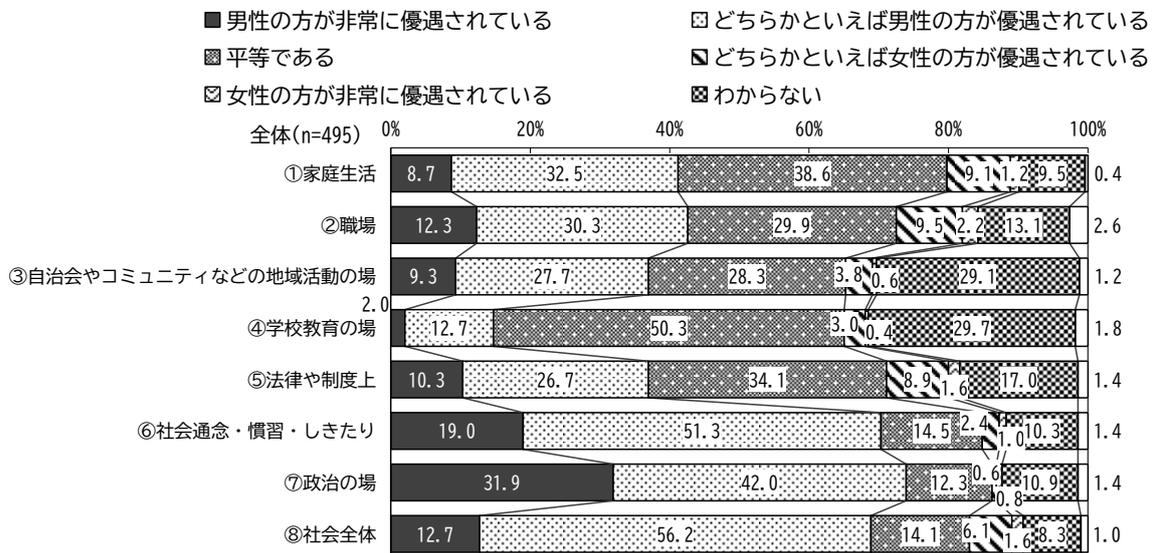


2 男女平等に関する意識について

Q1 あなたは次にあげる8つの分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。次の①～⑧の項目で、あなたのお考えに最も近いものをお答えください。(①～⑧のそれぞれについて、○は1つずつ)

【全体】

全体では、「平等である」は、「④学校教育の場」が50.3%で最も多く、次いで「①家庭生活」が38.6%、「⑤法律や制度上」が34.1%などとなっています。「男性の方が非常に優遇されている」(ア)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(イ)を合わせた『男性優遇』は、「⑦政治の場」、「⑥社会通念・慣習・しきたり」、「⑧社会全体」の順に多くなっています。また、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(ウ)と「女性の方が非常に優遇されている」(エ)を合わせた『女性優遇』は、「②職場」、「⑤法律や制度上」、「①家庭生活」の順に多くなっています。



分野	『男性優遇』 (ア+イ)		順位	『女性優遇』 (ウ+エ)		順位	わからない	無回答
	割合 (%)	順位		割合 (%)	順位			
全体 (n=495)								
①家庭生活	41.2	5	10.3	3				
②職場	42.6	4	11.7	1				
③自治会やコミュニティなどの地域活動の場	37.0	6	4.4	5				
④学校教育の場	14.7	7	3.4	6				
⑤法律や制度上	37.0	6	10.5	2				
⑥社会通念・慣習・しきたり	70.3	2	3.4	6				
⑦政治の場	73.9	1	1.4	7				
⑧社会全体	68.9	3	7.7	4				

【前回比較】

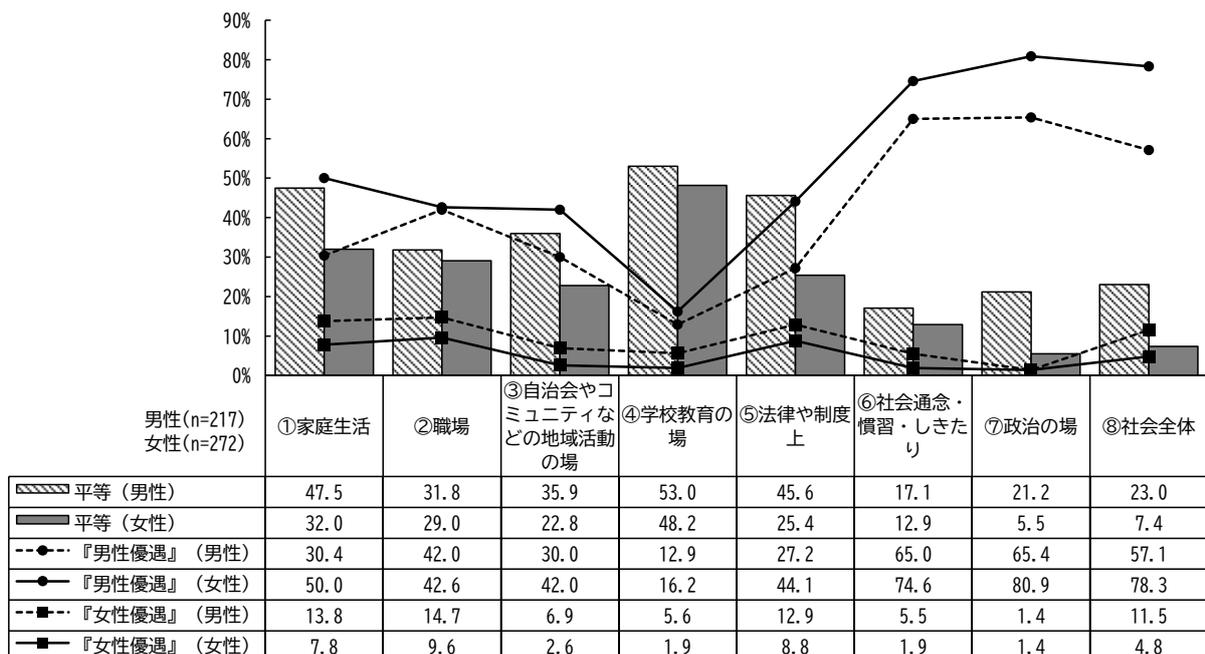
前回調査との比較では、「平等である」の割合は「①家庭生活」を除き全体的に減少しており、「③自治会やコミュニティなどの地域活動の場」「④学校教育の場」で減少幅が大きくなっています。『男性優遇』の割合は、「①家庭生活」や「②職場」で減少幅がやや大きく、「③自治会やコミュニティなどの地域活動の場」「⑥社会通念・慣習・しきたり」「⑦政治の場」で増加しています。また、『女性優遇』の割合は、「⑧社会全体」「②職場」「⑤法律や制度上」で増加しています。

	今回(n=495) 前回(n=412)	平等 (今回)	平等 (前回)	増減
①家庭生活		38.6	36.4	↑ 2.2
②職場		29.9	30.3	↓ -0.4
③自治会やコミュニティなどの地域活動の場		28.3	40.8	↓ -12.5
④学校教育の場		50.3	57.0	↓ -6.7
⑤法律や制度上		34.1	35.0	↓ -0.8
⑥社会通念・慣習・しきたり		14.5	17.2	↓ -2.7
⑦政治の場		12.3	15.0	↓ -2.7
⑧社会全体		14.1	14.3	↓ -0.2

	今回(n=495) 前回(n=412)	『男性優遇』 (今回)	『男性優遇』 (前回)	増減	『女性優遇』 (今回)	『女性優遇』 (前回)	増減
①家庭生活		41.2	46.3	↓ -5.1	10.3	9.2	↑ 1.1
②職場		42.6	47.1	↓ -4.5	11.7	6.8	↑ 4.9
③自治会やコミュニティなどの地域活動の場		37.0	32.3	↑ 4.7	4.4	3.9	↑ 0.5
④学校教育の場		14.7	13.6	↑ 1.1	3.4	3.6	↓ -0.2
⑤法律や制度上		37.0	39.1	↓ -2.1	10.5	5.8	↑ 4.7
⑥社会通念・慣習・しきたり		70.3	66.0	↑ 4.3	3.4	3.2	↑ 0.2
⑦政治の場		73.9	69.9	↑ 4.0	1.4	1.0	↑ 0.4
⑧社会全体		68.9	70.6	↓ -1.7	7.7	2.7	↑ 5.0

【男女別】

男女別の比較では、総じて女性よりも男性で「平等である」の割合が高く、男女差が大きい「①家庭生活」「③自治会やコミュニティなどの地域活動の場」「⑤法律や制度上」「⑦政治の場」「⑧社会全体」では、女性の『男性優遇』の回答割合が高くなっています。



【前回比較－男性】

男性について、前回調査との比較では、「平等である」の割合が増加したのは①、減少したのは③、④、⑥などとなっています。『男性優遇』の割合が増加したのは⑥、減少したのは①、⑧などとなっています。また、『女性優遇』は⑧、②で微増となっています。

男性	今回(n=217) 前回(n=136)	平等 (今回)	平等 (前回)	増減	『女性優遇』 (今回)	『女性優遇』 (前回)	増減
①家庭生活		47.5	38.2	↑ 9.3	13.8	13.2	↔ 0.6
②職場		31.8	30.9	↔ 0.9	14.7	11.0	↗ 3.7
③自治会やコミュニティなどの地域活動の場		35.9	48.5	↓ -12.6	6.9	5.9	↗ 1.0
④学校教育の場		53.0	61.8	↓ -8.8	5.6	6.6	↘ -1.0
⑤法律や制度上		45.6	44.1	↗ 1.5	12.9	14.0	↘ -1.1
⑥社会通念・慣習・しきたり		17.1	23.5	↓ -6.4	5.5	5.2	↗ 0.3
⑦政治の場		21.2	19.1	↗ 2.1	1.4	2.2	↘ -0.8
⑧社会全体		23.0	19.1	↗ 3.9	11.5	6.6	↗ 4.9

男性	今回(n=217) 前回(n=136)	『男性優遇』 (今回)	『男性優遇』 (前回)	増減	『女性優遇』 (今回)	『女性優遇』 (前回)	増減
①家庭生活		30.4	41.9	↓ -11.5	13.8	13.2	↔ 0.6
②職場		42.0	44.8	↘ -2.8	14.7	11.0	↗ 3.7
③自治会やコミュニティなどの地域活動の場		30.0	30.9	↘ -0.9	6.9	5.9	↗ 1.0
④学校教育の場		12.9	11.0	↗ 1.9	5.6	6.6	↘ -1.0
⑤法律や制度上		27.2	30.9	↘ -3.7	12.9	14.0	↘ -1.1
⑥社会通念・慣習・しきたり		65.0	59.5	↑ 5.5	5.5	5.2	↗ 0.3
⑦政治の場		65.4	65.4	↔ 0.0	1.4	2.2	↘ -0.8
⑧社会全体		57.1	65.5	↓ -8.4	11.5	6.6	↗ 4.9

【前回比較－女性】

女性について、前回調査との比較では、「平等である」の割合は全体的に減少しており、③、⑦、④、⑤などで減少幅が大きくなっています。『男性優遇』の割合が増加したのは③、⑦、⑥、⑧などで、減少したのは②のみとなっています。また、『女性優遇』は⑤、②、⑧などで増加しています。

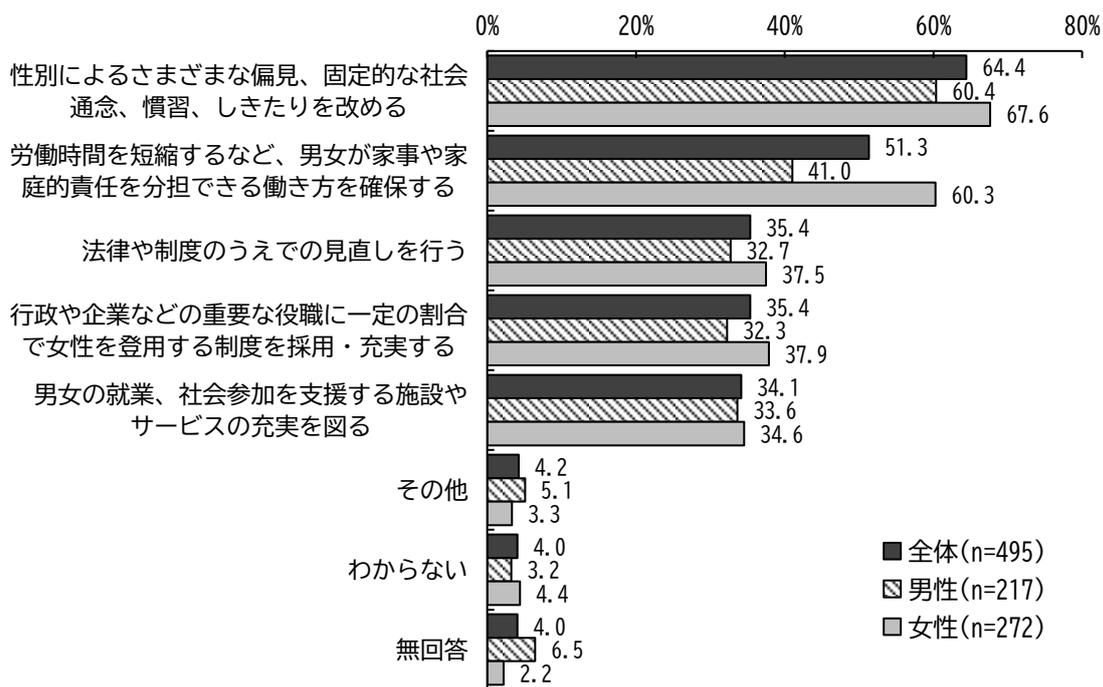
女性	今回(n=272) 前回(n=270)	平等 (今回)	平等 (前回)	増減	『女性優遇』 (今回)	『女性優遇』 (前回)	増減
①家庭生活		32.0	35.9	↘ -3.9	7.8	6.7	↗ 1.1
②職場		29.0	30.7	↘ -1.7	9.6	4.8	↗ 4.8
③自治会やコミュニティなどの地域活動の場		22.8	37.0	↓ -14.2	2.6	2.9	↘ -0.3
④学校教育の場		48.2	55.2	↓ -7.0	1.9	1.9	↔ 0.0
⑤法律や制度上		25.4	31.1	↓ -5.7	8.8	1.5	↑ 7.3
⑥社会通念・慣習・しきたり		12.9	14.4	↘ -1.5	1.9	1.9	↔ 0.0
⑦政治の場		5.5	13.3	↓ -7.8	1.4	0.0	↗ 1.4
⑧社会全体		7.4	12.2	↘ -4.8	4.8	0.4	↗ 4.4

女性	今回(n=272) 前回(n=270)	『男性優遇』 (今回)	『男性優遇』 (前回)	増減	『女性優遇』 (今回)	『女性優遇』 (前回)	増減
①家庭生活		50.0	48.5	↗ 1.5	7.8	6.7	↗ 1.1
②職場		42.6	48.5	↓ -5.9	9.6	4.8	↗ 4.8
③自治会やコミュニティなどの地域活動の場		42.0	32.3	↑ 9.7	2.6	2.9	↘ -0.3
④学校教育の場		16.2	14.8	↗ 1.4	1.9	1.9	↔ 0.0
⑤法律や制度上		44.1	43.3	↗ 0.8	8.8	1.5	↑ 7.3
⑥社会通念・慣習・しきたり		74.6	69.3	↑ 5.3	1.9	1.9	↔ 0.0
⑦政治の場		80.9	72.3	↑ 8.6	1.4	0.0	↗ 1.4
⑧社会全体		78.3	73.3	↑ 5.0	4.8	0.4	↗ 4.4

Q2 男女平等社会を実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体では、「性別によるさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」が64.4%で最も多く、次いで「労働時間を短縮するなど、男女が家事や家庭的責任を分担できる働き方を確保する」が51.3%、「法律や制度のうえでの見直しを行う」「行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実する」がともに35.4%などとなっています。

男女別の比較では、女性で「性別によるさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」「労働時間を短縮するなど、男女が家事や家庭的責任を分担できる働き方を確保する」などの割合が特に高くなっています。



【年代別】

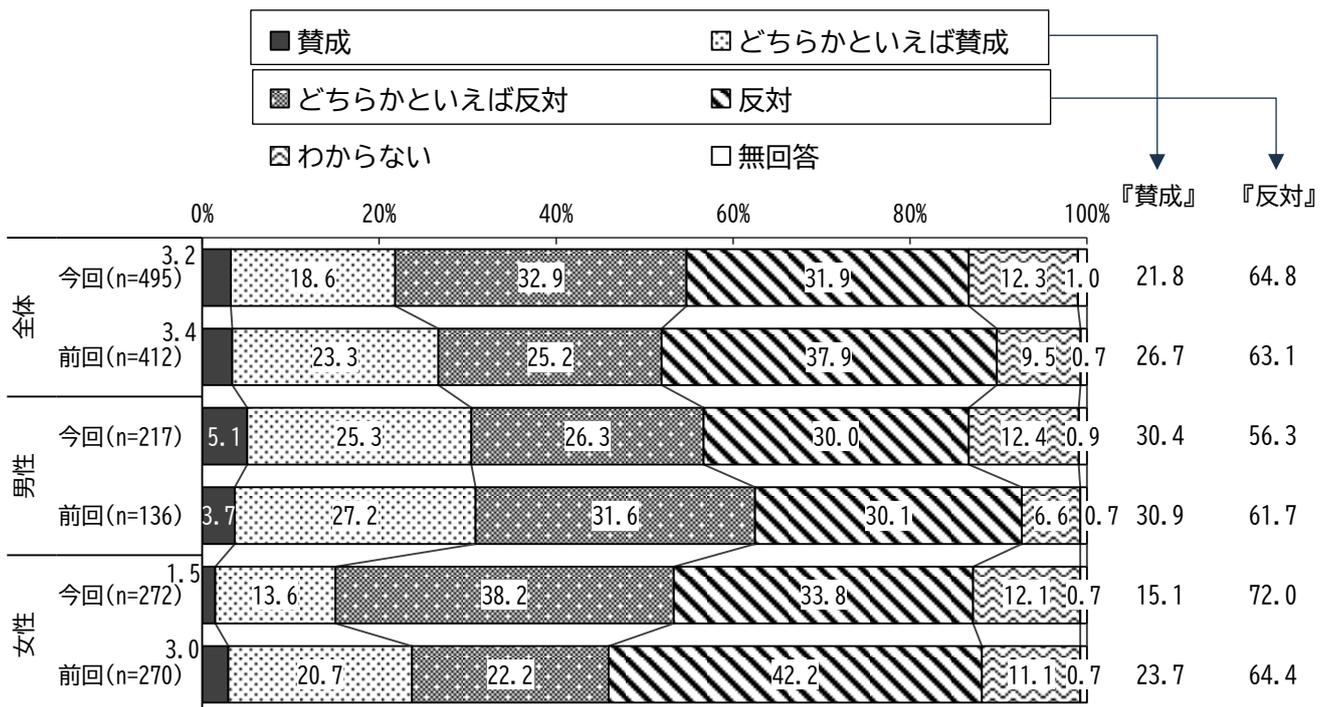
年代別の比較では、いずれの年代でも「性別によるさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」の割合が最も高くなっているものの、40歳未満でその割合が7割程度と特に高くなっています。また、30歳代で「労働時間を短縮するなど、男女が家事や家庭的責任を分担できる働き方を確保する」、60歳代で「行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実する」などの割合が高くなっています。

	法律や制度のうえでの見直しを行う	性別によるさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める	男女の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る	労働時間を短縮するなど、男女が家事や家庭的責任を分担できる働き方を確保する	行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実する	その他	わからない	無回答
全体(n=495)	35.4	64.4	34.1	51.3	35.4	4.2	4.0	4.0
18~29歳(n=101)	31.7	69.3	32.7	53.5	24.8	6.9	0.0	4.0
30~39歳(n=97)	39.2	71.1	39.2	69.1	32.0	4.1	2.1	4.1
40~49歳(n=115)	33.0	62.6	31.3	51.3	33.0	5.2	5.2	4.3
50~59歳(n=84)	40.5	57.1	39.3	39.3	41.7	2.4	7.1	4.8
60~69歳(n=62)	32.3	61.3	30.6	40.3	50.0	1.6	4.8	1.6
70歳以上(n=34)	38.2	64.7	29.4	47.1	41.2	2.9	5.9	5.9

Q3 「男性は仕事、女性は家庭」という考えがありますが、あなたはこの考えに賛成しますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

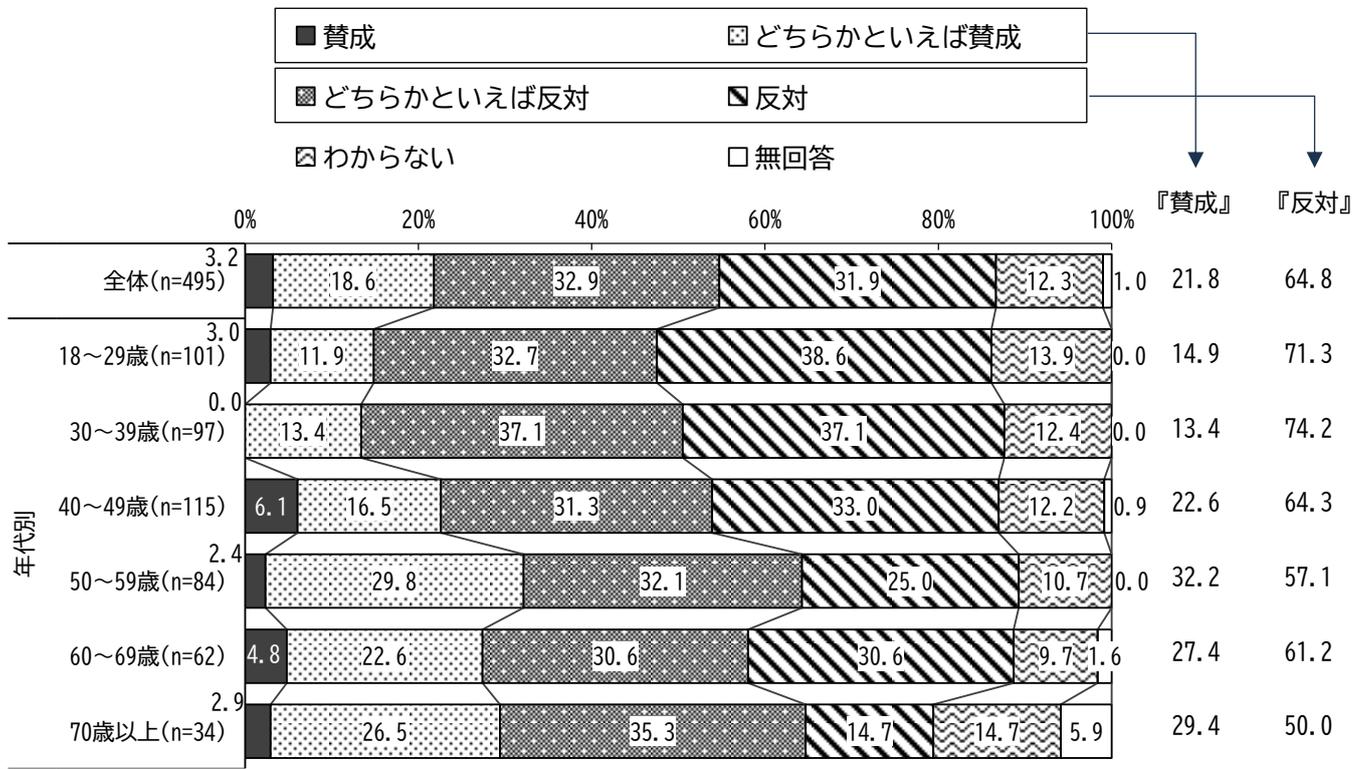
全体では、「賛成」(3.2%)と「どちらかといえば賛成」(18.6%)を合わせた『賛成』が21.8%に対し、「どちらかといえば反対」(32.9%)と「反対」(31.9%)を合わせた『反対』が64.8%、「わからない」が12.3%となっています。前回調査との比較では、「反対」の割合が減少し、「どちらかといえば反対」が増加しているものの、『反対』の割合は微増となっています。

男女別の比較では、女性で『反対』の割合が高くなっています。また、前回調査と比較すると、女性で『反対』の割合が増加している一方、男性では『反対』が減少しています。



【年代別】

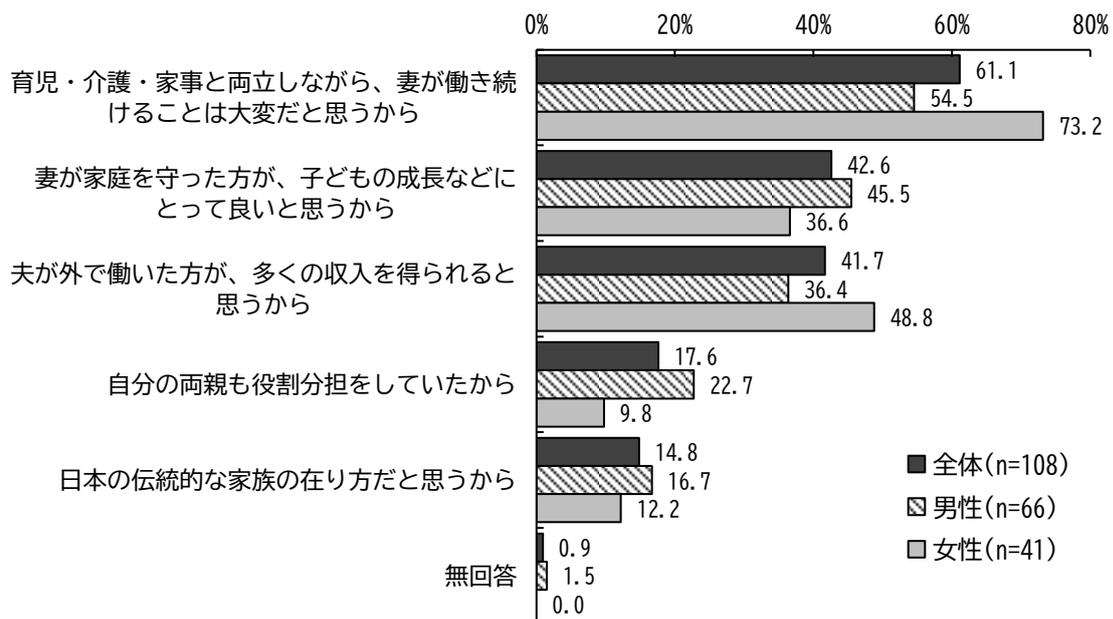
年代別の比較では、『反対』の割合は、40歳未満で7割を超えて高くなっている一方、50歳代や70歳以上では5割台と低くなっています。



Q3-1 Q3で「1 賛成」・「2 どちらかといえば賛成」と回答した方に伺います。賛成と思うのはなぜですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体では、「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が61.1%で最も多く、次いで「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が42.6%、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が41.7%などとなっています。

男女別の比較では、女性で「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」、男性で「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」「自分の両親も役割分担していたから」などの割合が高くなっています。



【年代別】

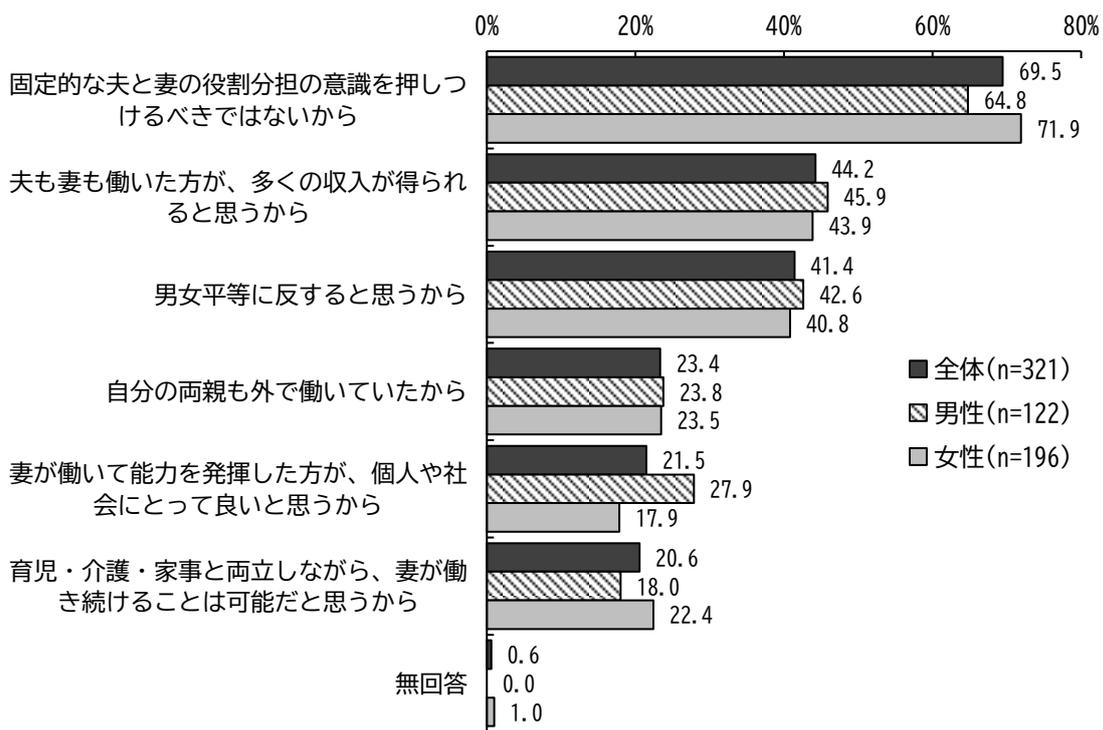
年代別の比較は、サンプル数が少ないため、参考までに掲載します。

	育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	自分の両親も役割分担をしていたから	日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	無回答
全体(n=108)	61.1	42.6	41.7	17.6	14.8	0.9
18～29歳(n=15)	60.0	13.3	33.3	33.3	26.7	6.7
30～39歳(n=13)	61.5	38.5	23.1	30.8	0.0	0.0
40～49歳(n=26)	65.4	50.0	65.4	7.7	11.5	0.0
50～59歳(n=27)	44.4	48.1	29.6	11.1	22.2	0.0
60～69歳(n=17)	76.5	41.2	41.2	17.6	0.0	0.0
70歳以上(n=10)	70.0	60.0	50.0	20.0	30.0	0.0

Q3-2 Q3で「3 どちらかといえば反対」・「4 反対」と回答した方に伺います。反対と思うのはなぜですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体では、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が69.5%で最も多く、次いで「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」が44.2%、「男女平等に反すると思うから」が41.4%などとなっています。

男女別の比較では、女性で「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」、男性で「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」の割合が比較的高くなっています。



【年代別】

年代別の比較では、40歳未満で「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」、40歳代から60歳代で「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」、50歳代～60歳代で「男女平等に反すると思うから」、30歳未満で「自分の両親も外で働いていたから」などの割合が比較的高くなっています。

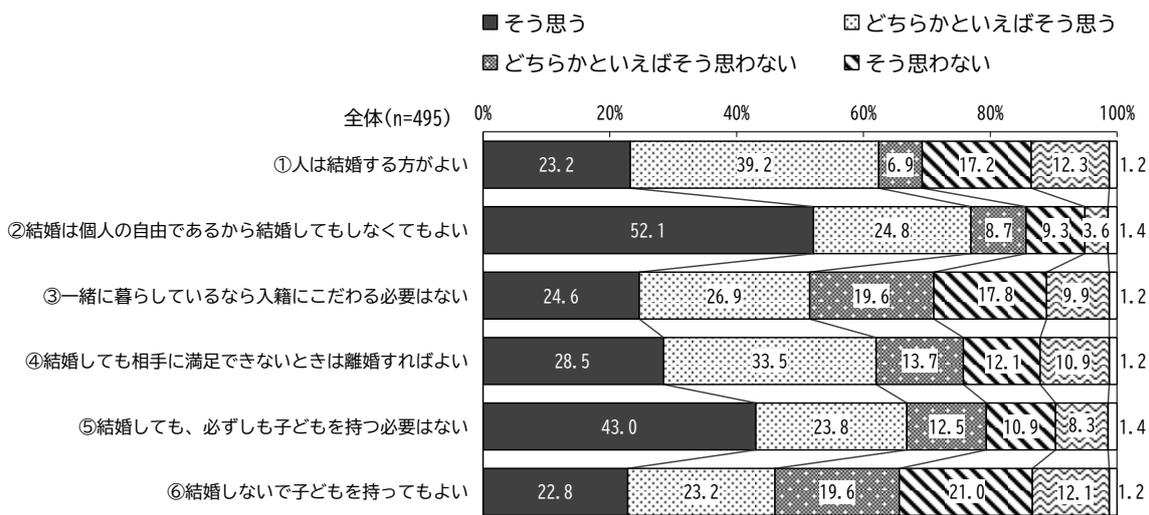
	固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから	夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから	男女平等に反すると思うから	自分の両親も外で働いていたから	妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから	無回答
全体(n=321)	69.5	44.2	41.4	23.4	21.5	20.6	0.6
18～29歳(n=72)	72.2	37.5	48.6	31.9	13.9	19.4	0.0
30～39歳(n=72)	75.0	44.4	27.8	18.1	18.1	19.4	0.0
40～49歳(n=74)	67.6	48.6	33.8	25.7	29.7	23.0	1.4
50～59歳(n=48)	66.7	47.9	54.2	18.8	20.8	16.7	0.0
60～69歳(n=38)	60.5	50.0	50.0	21.1	21.1	13.2	0.0
70歳以上(n=17)	70.6	29.4	47.1	17.6	35.3	47.1	5.9

3 男女の生き方や家庭生活についておたずねします

Q4 結婚や子どもを持つことについてどう思いますか。次の①～⑥の項目で、あなたのお考えに最も近いものをお答えください。(①～⑥のそれぞれについて○は1つずつ)

【全体】

全体では、「そう思う」は、「②結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい」が52.1%で最も多く、次いで「⑤結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」が43.0%、「④結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」が28.5%などとなっています。「そう思う」(ア)と「どちらかといえばそう思う」(イ)を合わせた『そう思う』は、「②結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい」「⑤結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」「①人は結婚する方がよい」の順に多くなっています。また、「どちらかといえばそう思わない」(ウ)と「そう思わない」(エ)を合わせた『そう思わない』は、「⑥結婚しないで子どもを持ってもよい」「③一緒に暮らしているなら入籍にこだわる必要はない」「④結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」の順に多くなっています。



	ア そう思う	イ どちらかとい えばそう 思う	ウ どちらかとい えばそう 思わない	エ そう思わな い	わからない	無回答
全体(n=495)						
①人は結婚する方がよい	23.2	39.2	6.9	17.2	12.3	1.2
②結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい	52.1	24.8	8.7	9.3	3.6	1.4
③一緒に暮らしているなら入籍にこだわる必要はない	24.6	26.9	19.6	17.8	9.9	1.2
④結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	28.5	33.5	13.7	12.1	10.9	1.2
⑤結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない	43.0	23.8	12.5	10.9	8.3	1.4
⑥結婚しないで子どもを持ってもよい	22.8	23.2	19.6	21.0	12.1	1.2

	ア+イ 『そう思う』	順位	エ+ウ 『思わない』	順位
全体(n=495)				
①人は結婚する方がよい	62.4	3	24.1	4
②結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい	76.9	1	18.0	6
③一緒に暮らしているなら入籍にこだわる必要はない	51.5	5	37.4	2
④結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	62.0	4	25.8	3
⑤結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない	66.8	2	23.4	5
⑥結婚しないで子どもを持ってもよい	46.0	6	40.6	1

【前回比較】

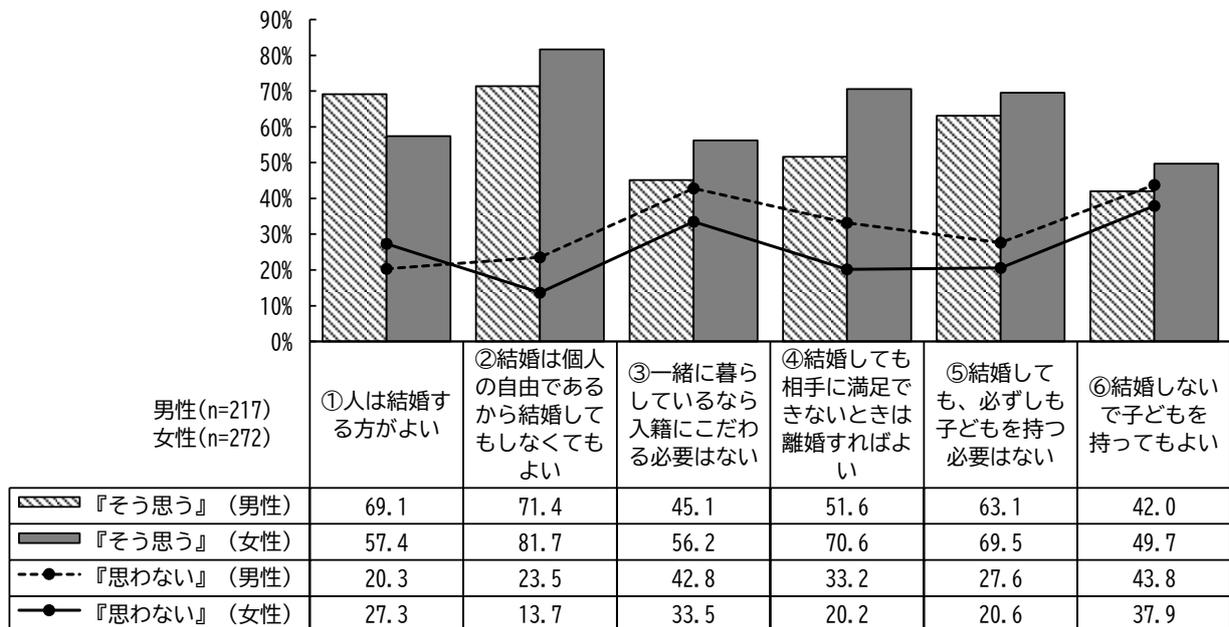
前回調査との比較では、『そう思う』の割合は「①人は結婚する方がよい」を除き全体的に増加しています。

	今回(n=495) 前回(n=412)	『そう思う』 (今回)	『そう思う』 (前回)	増減
①人は結婚する方がよい		62.4	70.6	↓ -8.2
②結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい		76.9	69.7	↑ 7.2
③一緒に暮らしているなら入籍にこだわる必要はない		51.5	41.7	↑ 9.8
④結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい		62.0	50.5	↑ 11.5
⑤結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない		66.8	54.6	↑ 12.2
⑥結婚しないで子どもを持ってもよい		46.0	34.4	↑ 11.6

	今回(n=495) 前回(n=412)	『思わない』 (今回)	『思わない』 (前回)	増減
①人は結婚する方がよい		24.1	18.5	↑ 5.6
②結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい		18.0	24.5	↓ -6.5
③一緒に暮らしているなら入籍にこだわる必要はない		37.4	46.3	↓ -8.9
④結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい		25.8	37.2	↓ -11.4
⑤結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない		23.4	34.7	↓ -11.3
⑥結婚しないで子どもを持ってもよい		40.6	51.5	↓ -10.9

【男女別】

男女別の比較では、総じて男性よりも女性で『そう思う』の割合が高くなっているものの、唯一「①人は結婚する方がよい」は、男性で『そう思う』の割合が高くなっています。



【前回比較－男性】

男性について、前回調査との比較では、『そう思う』の割合は「①人は結婚する方がよい」を除き全体的に増加しており、特に「⑤結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」の割合が大きく増加しています。

男性	今回(n=217)	『そう思う』 (今回)	『そう思う』 (前回)	増減
	前回(n=136)			
①人は結婚する方がよい	69.1	75.0	↓	-5.9
②結婚は個人の自由であるから結婚しなくてもよい	71.4	61.1	↑	10.3
③一緒に暮らしているなら入籍にこだわる必要はない	45.1	37.5	↑	7.6
④結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	51.6	46.3	↑	5.3
⑤結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない	63.1	47.1	↑	16.0
⑥結婚しないで子どもを持ってもよい	42.0	31.6	↑	10.4

男性	今回(n=217)	『思わない』 (今回)	『思わない』 (前回)	増減
	前回(n=136)			
①人は結婚する方がよい	20.3	15.4	↔	4.9
②結婚は個人の自由であるから結婚しなくてもよい	23.5	33.8	↓	-10.3
③一緒に暮らしているなら入籍にこだわる必要はない	42.8	53.6	↓	-10.8
④結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	33.2	44.1	↓	-10.9
⑤結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない	27.6	44.9	↓	-17.3
⑥結婚しないで子どもを持ってもよい	43.8	56.6	↓	-12.8

【前回比較－女性】

女性について、前回調査との比較では、『そう思う』の割合は「①人は結婚する方がよい」を除き全体的に増加しており、特に「④結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」の割合が大きく増加しています。

女性	今回(n=272)	『そう思う』 (今回)	『そう思う』 (前回)	増減
	前回(n=270)			
①人は結婚する方がよい	57.4	67.8	↓	-10.4
②結婚は個人の自由であるから結婚しなくてもよい	81.7	74.8	↑	6.9
③一緒に暮らしているなら入籍にこだわる必要はない	56.2	44.1	↑	12.1
④結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	70.6	53.4	↑	17.2
⑤結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない	69.5	59.3	↑	10.2
⑥結婚しないで子どもを持ってもよい	49.7	35.9	↑	13.8

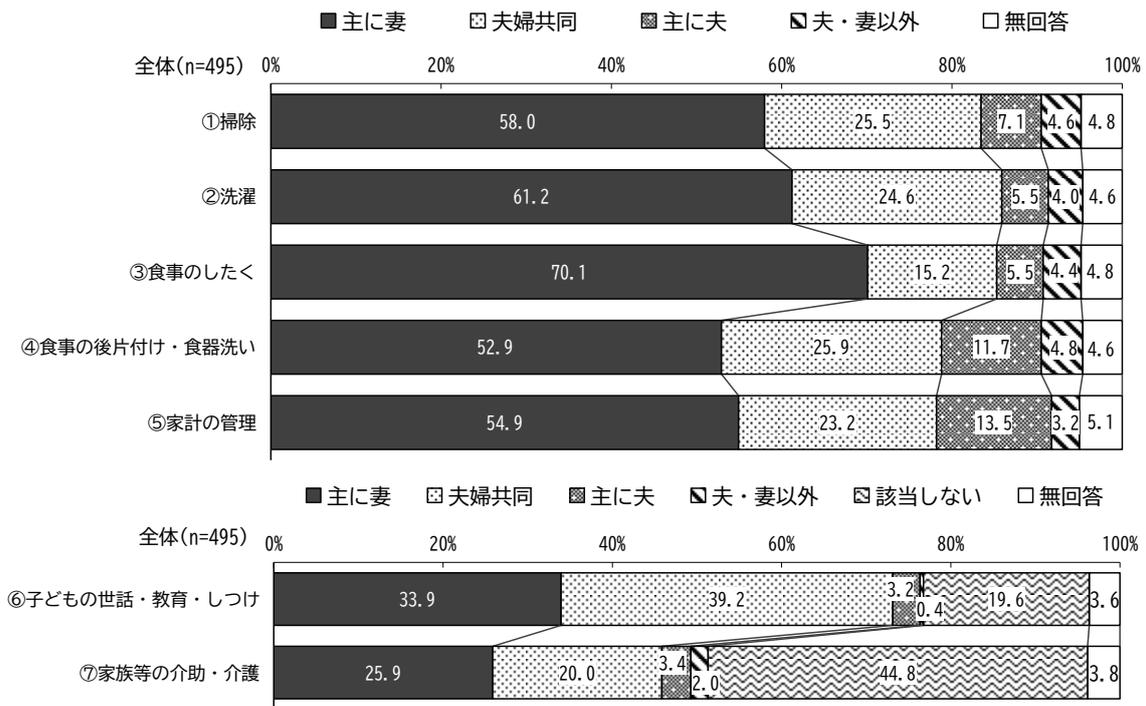
女性	今回(n=272)	『思わない』 (今回)	『思わない』 (前回)	増減
	前回(n=270)			
①人は結婚する方がよい	27.3	20.4	↑	6.9
②結婚は個人の自由であるから結婚しなくてもよい	13.7	18.8	↓	-5.1
③一緒に暮らしているなら入籍にこだわる必要はない	33.5	43.0	↓	-9.5
④結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	20.2	32.6	↓	-12.4
⑤結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない	20.6	29.2	↓	-8.6
⑥結婚しないで子どもを持ってもよい	37.9	48.5	↓	-10.6

Q5 あなたの家庭では、次の①～⑦のような家庭の仕事を主に誰が担っていますか。

(①～⑦のそれぞれについて、○は1つずつ)

【全体】

全体では、「⑥子どもの世話・教育・しつけ」以外の項目で「主に妻」の割合が最も高くなっています。(※該当しないは除く)「夫婦共同」の割合は、「⑥子どもの世話・教育・しつけ」「④食事の後片付け・食器洗い」「①掃除」の順に高くなっています。



【前回比較】

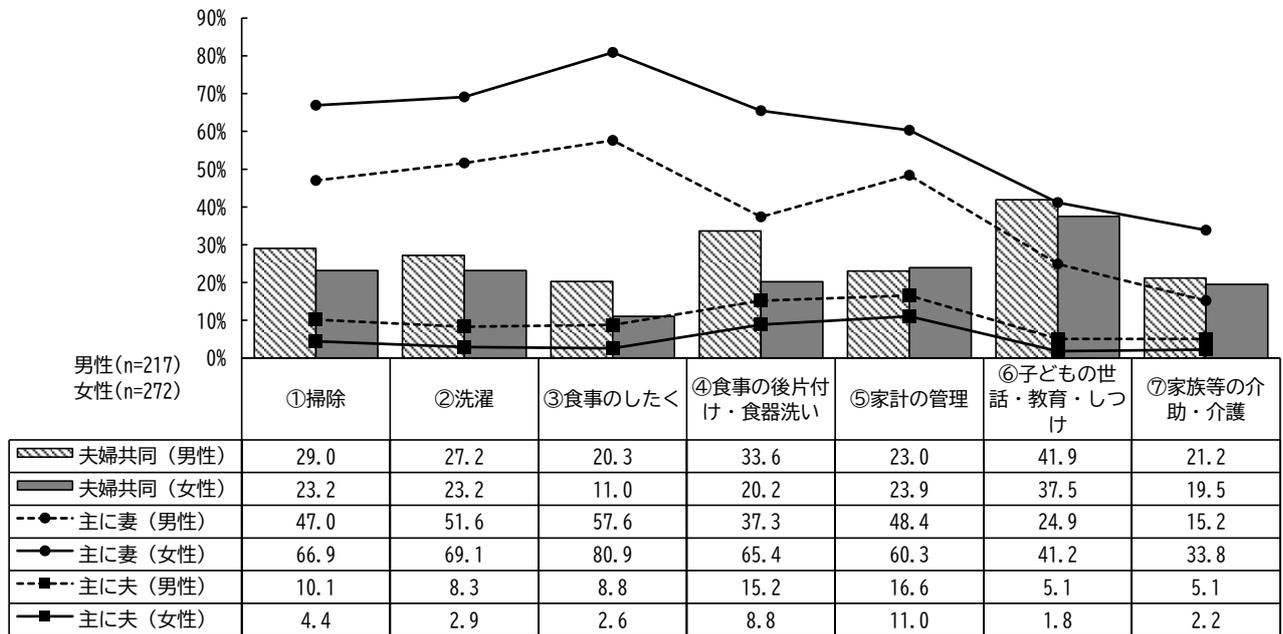
前回調査との比較では、「夫婦共同」の割合は「⑥子どもの世話・教育・しつけ」を除き、全体的に増加しています。また、「主に夫」の割合は全ての項目で増加しています。一方、「主に妻」の割合は、全ての項目で減少しており、「②洗濯」「④食事の後片付け・食器洗い」「⑤家計の管理」で減少幅が大きくなっています。

項目	今回(n=495)	夫婦共同(今回)	夫婦共同(前回)	増減
①掃除	25.5	22.8	22.8	↑ 2.7
②洗濯	24.6	15.3	15.3	↑ 9.3
③食事のしたく	15.2	11.4	11.4	↑ 3.8
④食事の後片付け・食器洗い	25.9	20.9	20.9	↑ 5.0
⑤家計の管理	23.2	17.5	17.5	↑ 5.7
⑥子どもの世話・教育・しつけ	39.2	40.8	40.8	↓ -1.6

項目	今回(n=495)	主に妻(今回)	主に妻(前回)	増減	主に夫(今回)	主に夫(前回)	増減
①掃除	58.0	65.0	65.0	↓ -7.0	7.1	1.9	↑ 5.2
②洗濯	61.2	73.1	73.1	↓ -11.9	5.5	1.7	↑ 3.8
③食事のしたく	70.1	76.7	76.7	↓ -6.6	5.5	1.7	↑ 3.8
④食事の後片付け・食器洗い	52.9	64.8	64.8	↓ -11.9	11.7	3.6	↑ 8.1
⑤家計の管理	54.9	66.0	66.0	↓ -11.1	13.5	8.3	↑ 5.2
⑥子どもの世話・教育・しつけ	33.9	37.6	37.6	↓ -3.7	3.2	0.7	↑ 2.5

【男女別】

男女別の比較では、「⑤家計の管理」「⑦家族等の介助・介護」で男女ともに「夫婦共同」がほぼ同じ割合になっているものの、全ての項目で男女ともに「主に妻」の割合が高くなっています。



【前回比較－男性】

男性について、前回調査との比較では、「夫婦協働」の割合が増加したのは②、③、④、減少したのは⑥などとなっています。また、「主に夫」の割合は、全ての項目で増加している一方、「主に妻」の割合は全ての項目で減少しています。

男性 今回(n=217) 前回(n=136)	夫婦協働 (今回)	夫婦協働 (前回)	増減
①掃除	29.0	31.6	↓ -2.6
②洗濯	27.2	19.1	↑ 8.1
③食事のしたく	20.3	14.0	↑ 6.3
④食事の後片付け・食器洗い	33.6	27.2	↑ 6.4
⑤家計の管理	23.0	20.6	↑ 2.4
⑥子どもの世話・教育・しつけ	41.9	49.3	↓ -7.4

男性 今回(n=217) 前回(n=136)	主に妻 (今回)	主に妻 (前回)	増減	主に夫 (今回)	主に夫 (前回)	増減
①掃除	47.0	53.7	↓ -6.7	10.1	2.9	↑ 7.2
②洗濯	51.6	64.7	↓ -13.1	8.3	3.7	↑ 4.6
③食事のしたく	57.6	72.1	↓ -14.5	8.8	1.5	↑ 7.3
④食事の後片付け・食器洗い	37.3	53.7	↓ -16.4	15.2	6.6	↑ 8.6
⑤家計の管理	48.4	55.1	↓ -6.7	16.6	14.0	↑ 2.6
⑥子どもの世話・教育・しつけ	24.9	25.0	↓ -0.1	5.1	1.5	↑ 3.6

【前回比較－女性】

女性について、前回調査との比較では、「夫婦協働」と「主に夫」の割合が全ての項目で増加しています。一方、「主に妻」の割合は、③を除き全体的に減少しています。

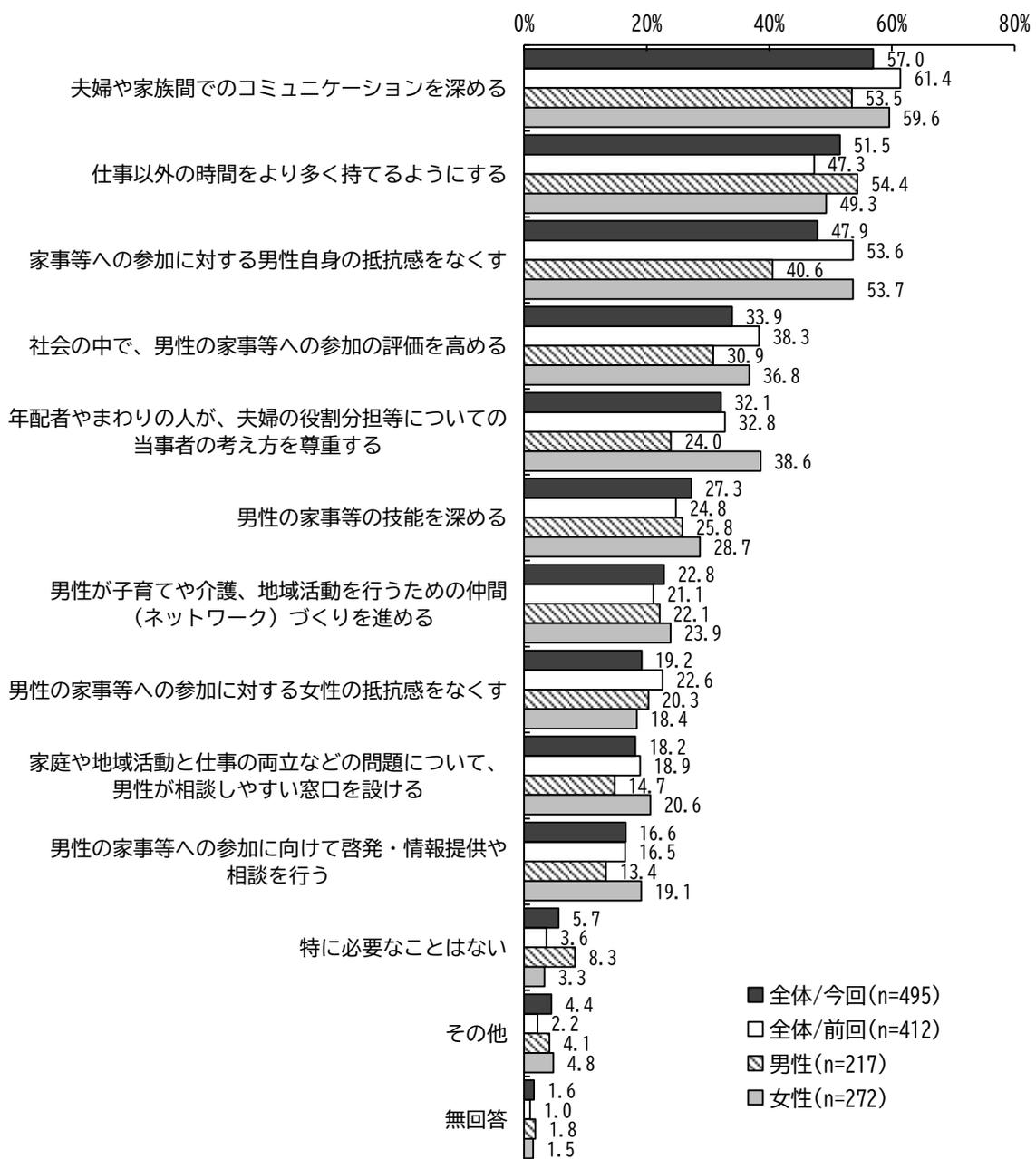
女性	今回(n=272)	夫婦協働 (今回)	夫婦協働 (前回)	増減
	前回(n=270)			
①掃除		23.2	18.9	↑ 4.3
②洗濯		23.2	13.3	↑ 9.9
③食事のしたく		11.0	9.6	↑ 1.4
④食事の後片付け・食器洗い		20.2	17.4	↑ 2.8
⑤家計の管理		23.9	16.3	↑ 7.6
⑥子どもの世話・教育・しつけ		37.5	37.0	↑ 0.5

女性	今回(n=272)	主に妻 (今回)	主に妻 (前回)	増減	主に夫 (今回)	主に夫 (前回)	増減
	前回(n=270)						
①掃除		66.9	70.4	↓ -3.5	4.4	1.1	↑ 3.3
②洗濯		69.1	77.0	↓ -7.9	2.9	0.7	↑ 2.2
③食事のしたく		80.9	79.3	↑ 1.6	2.6	1.9	↑ 0.7
④食事の後片付け・食器洗い		65.4	70.4	↓ -5.0	8.8	2.2	↑ 6.6
⑤家計の管理		60.3	71.1	↓ -10.8	11.0	5.2	↑ 5.8
⑥子どもの世話・教育・しつけ		41.2	43.3	↓ -2.1	1.8	0.0	↑ 1.8

Q6 今後、男女がともに、家事等（家事、子育て、介護、地域活動を含む）に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションを深める」が57.0%で最も多く、次いで「仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が51.5%、「家事等への参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」が47.9%などとなっています。前回調査との比較では、「仕事以外の時間をより多く持てるようにする」の割合が増加しています。

男女別の比較では、男性で「仕事以外の時間をより多く持てるようにする」、女性で「夫婦や家族間でのコミュニケーションを深める」「家事等への参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」などの割合が比較的高くなっています。

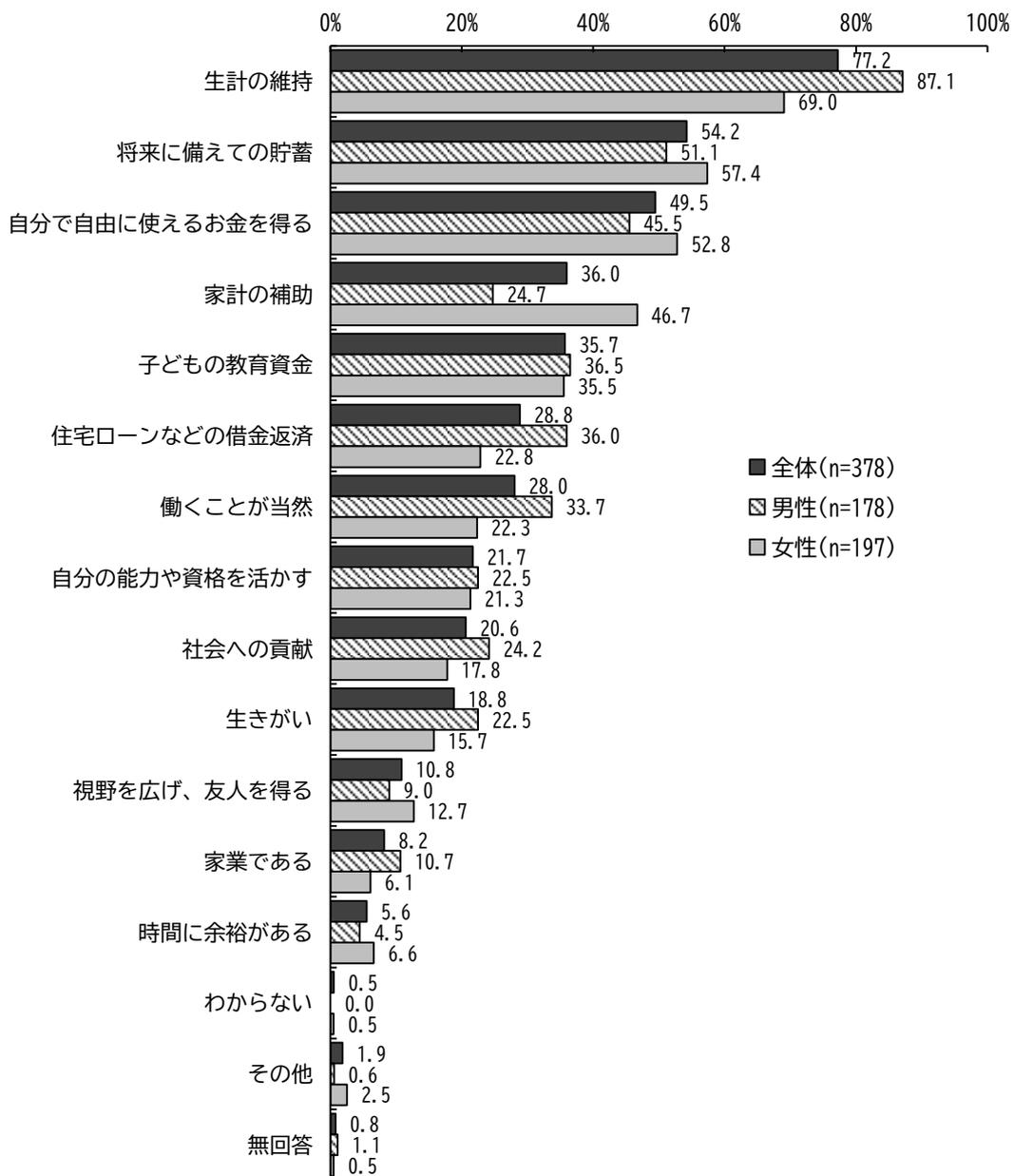


4 就労・働き方について

Q7 現在働いている方にお伺いします。あなたが働いているのは、どのような理由からですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体では、「生計の維持」が77.2%で最も多く、次いで「将来に備えての貯蓄」が54.2%、「自分で自由に使えるお金を得る」が49.5%などとなっています。

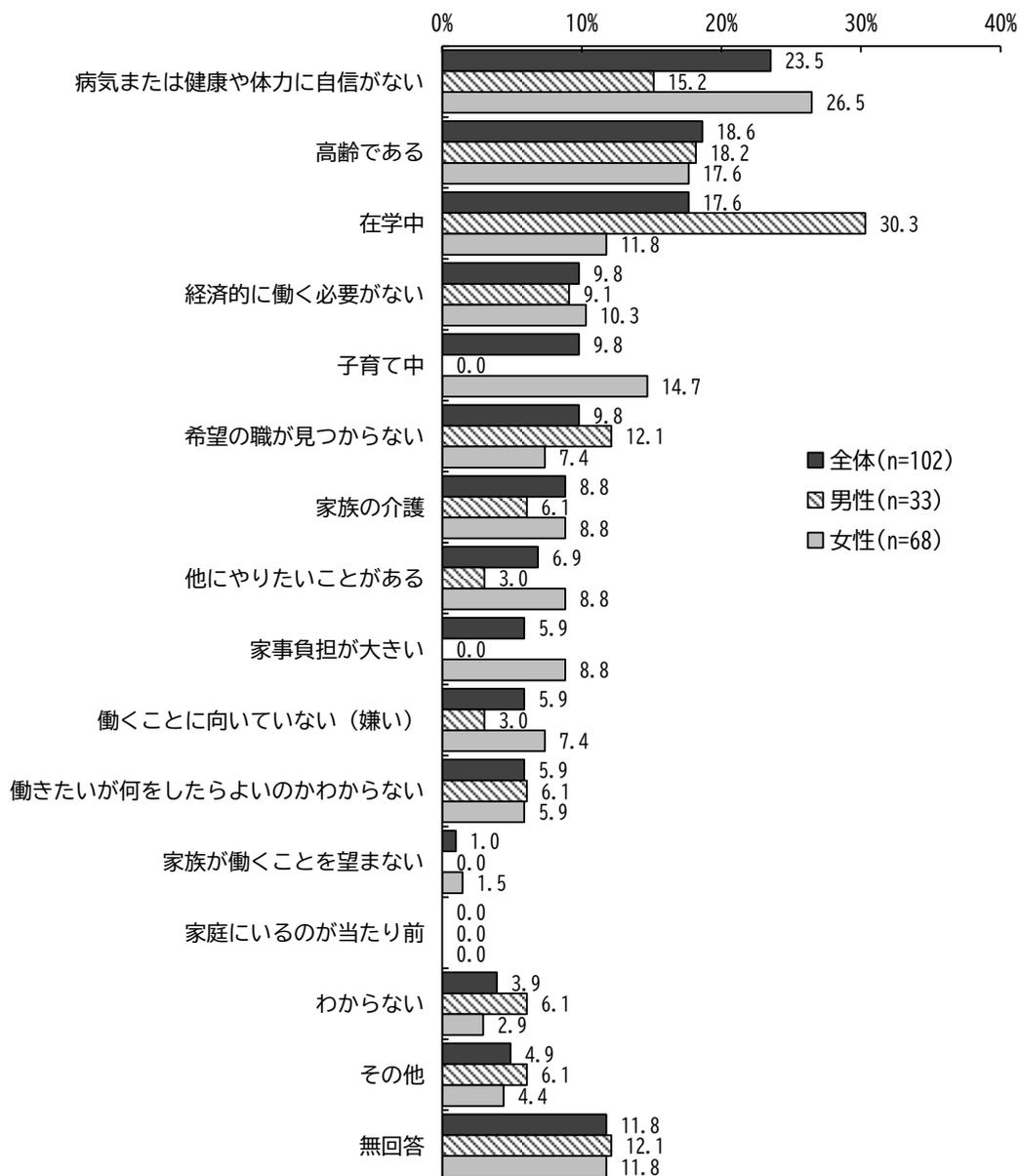
男女別の比較では、男性で「生計の維持」「住宅ローンなどの借金返済」「働くことが当然」、女性で「将来に備えての貯蓄」「自分で自由に使えるお金を得る」「家計の補助」などの割合が比較的高くなっています。



Q8 現在働いていない方にお伺いします。あなたが働いていないのは、どのような理由からですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体では、「病気または健康や体力に自信がない」が23.5%で最も多く、次いで「高齢である」が18.6%、「在学中」が17.6%などとなっています。

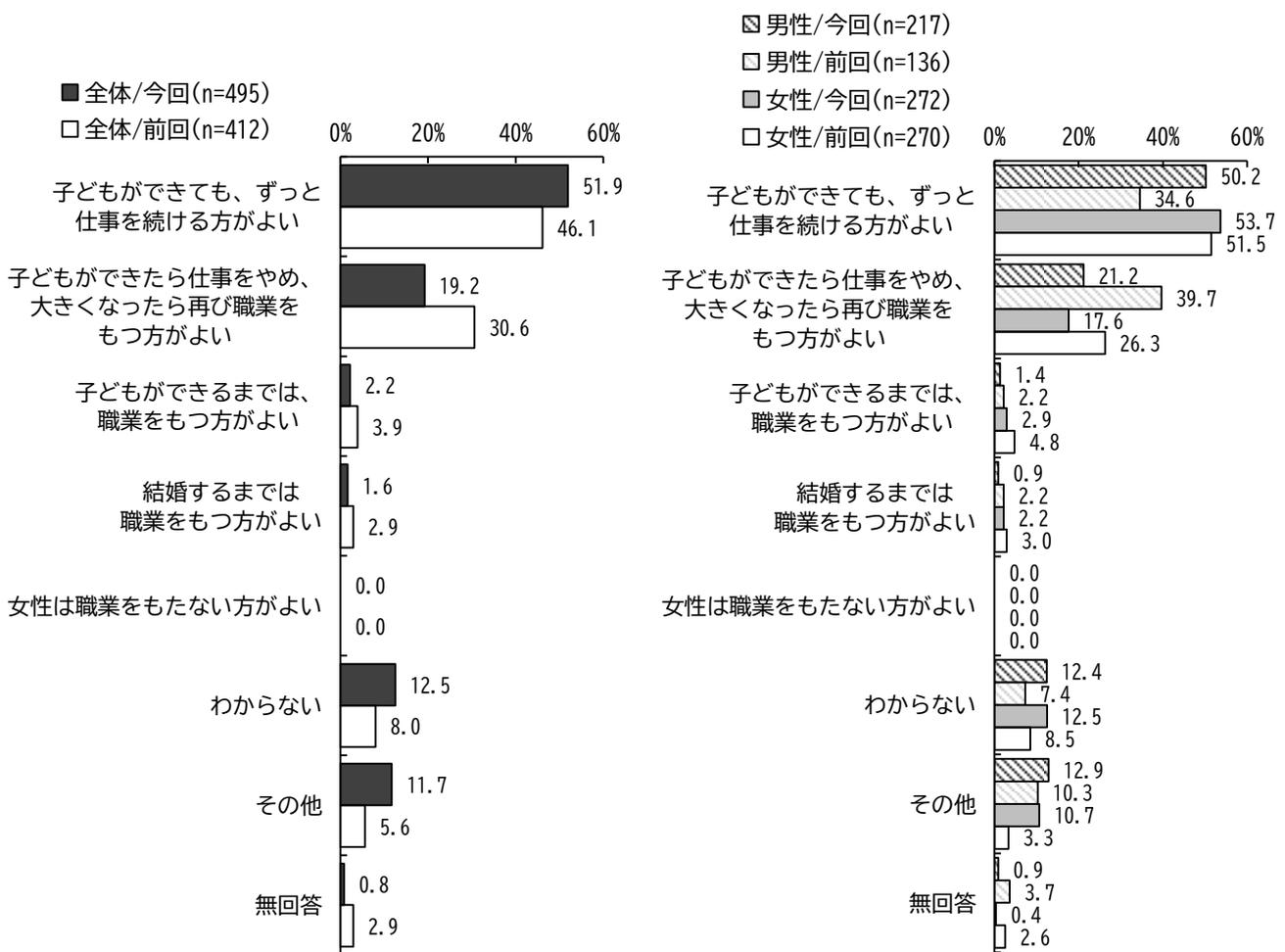
男女別の比較では、男性で「在学中」「希望の職が見つからない」、女性で「病気または健康や体力に自信がない」「子育て中」などの割合が特に高くなっています。



Q9 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどうお考えですか。あなたのお考えに最も近いもの1つに○をつけてください。

全体では、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が51.9%で最も多く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が19.2%、「わからない」が12.5%などとなっています。前回調査との比較では、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が増加した一方、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が減少しています。

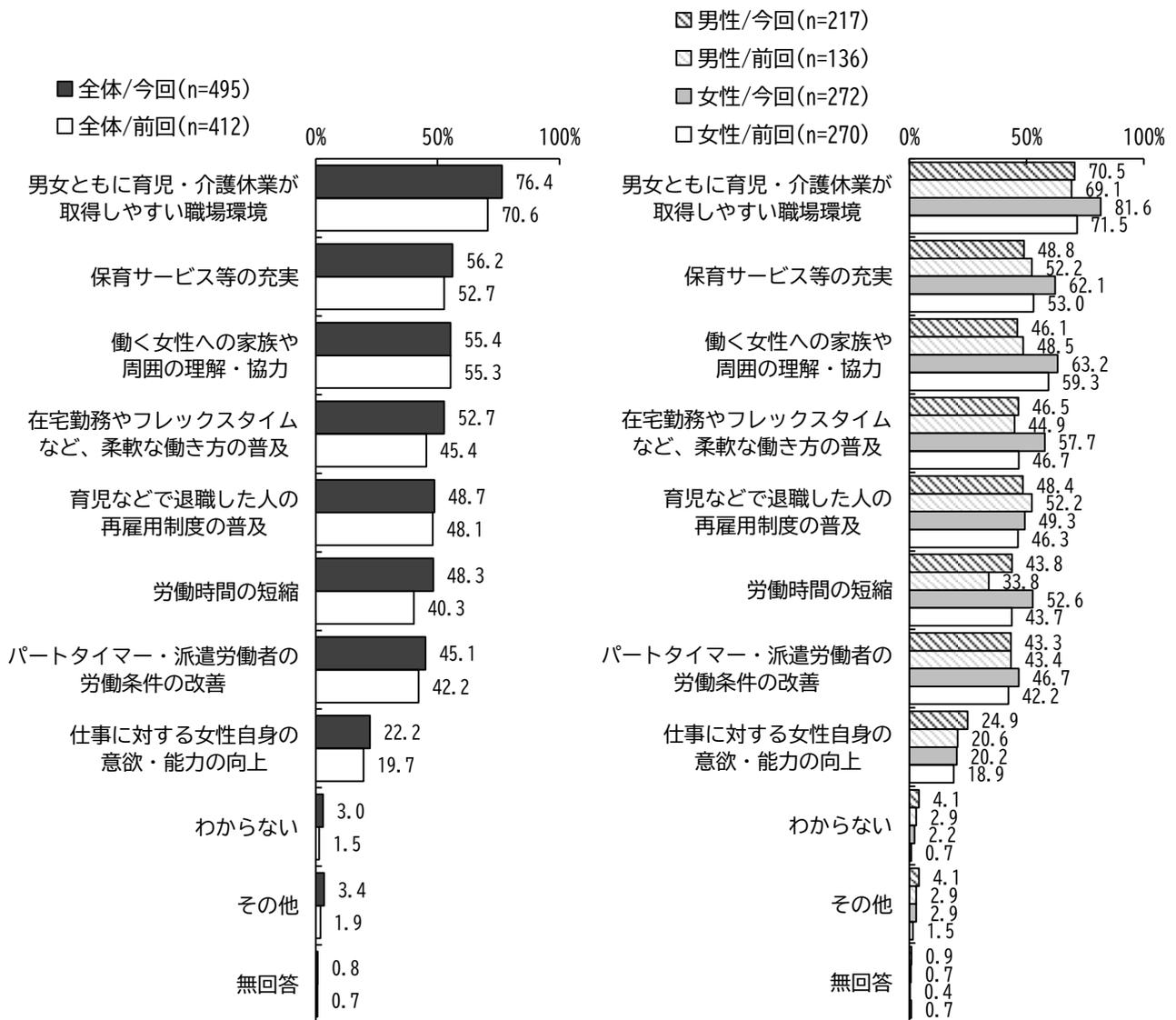
男女別の比較では、男性よりも女性で「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合がやや高くなっています。ただし、前回調査と比較すると、男性で「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合の増加が顕著になっています。



Q10 あなたは女性が働き続けるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体では、「男女ともに育児・介護休業が取得しやすい職場環境」が76.4%で最も多く、次いで「保育サービス等の充実」が56.2%、「働く女性への家族や周囲の理解・協力」が55.4%などとなっています。前回調査との比較では、「男女ともに育児・介護休業が取得しやすい職場環境」「在宅勤務やフレックスタイムなど、柔軟な働き方の普及」「労働時間の短縮」などの割合が増加しています。

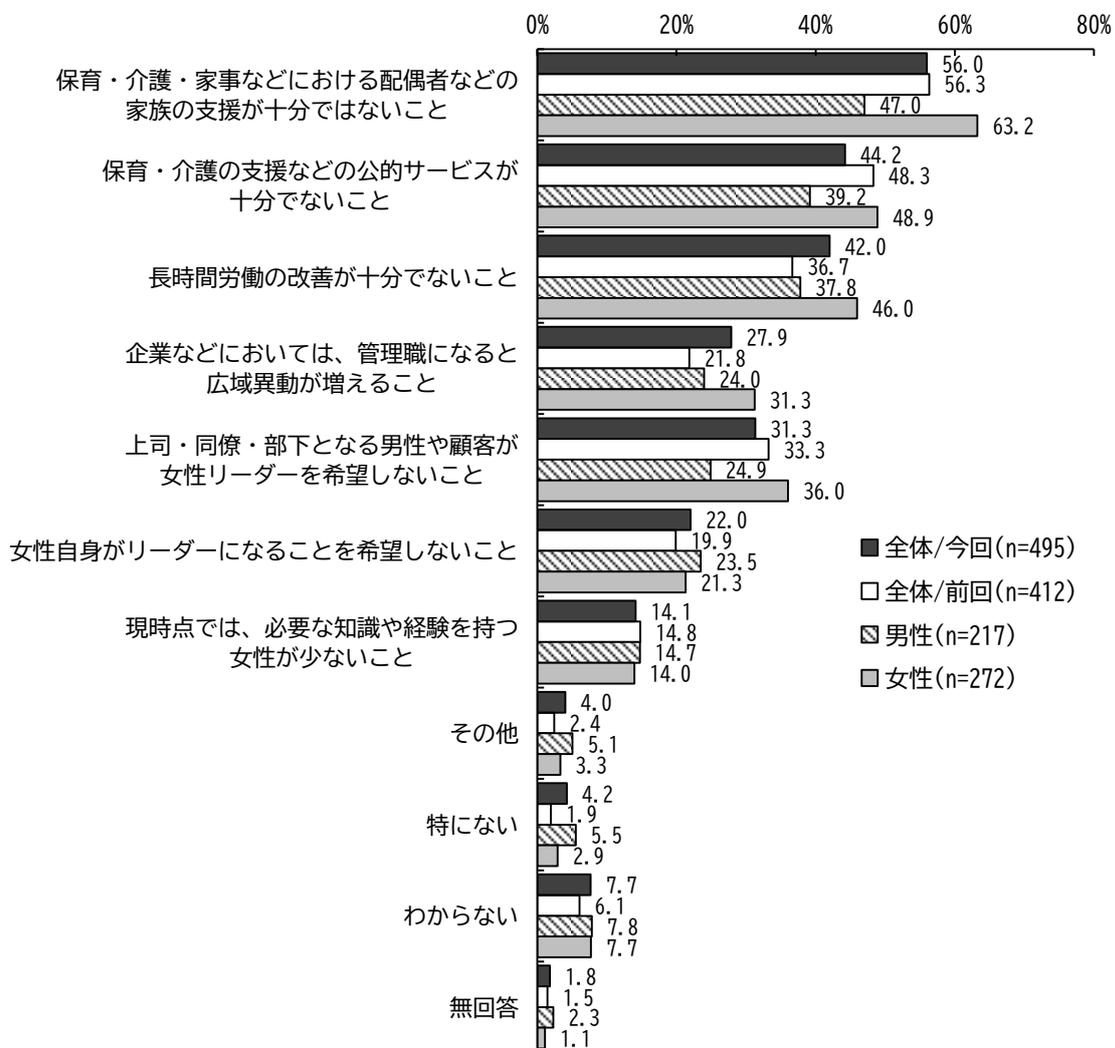
男女別の比較では、「仕事に対する女性自身の意欲・能力の向上」を除き、総じて男性よりも女性の回答割合が高く、特に「働く女性への家族や周囲の理解・協力」や「保育サービス等の充実」で男女差が大きくなっています。



Q11 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思えますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

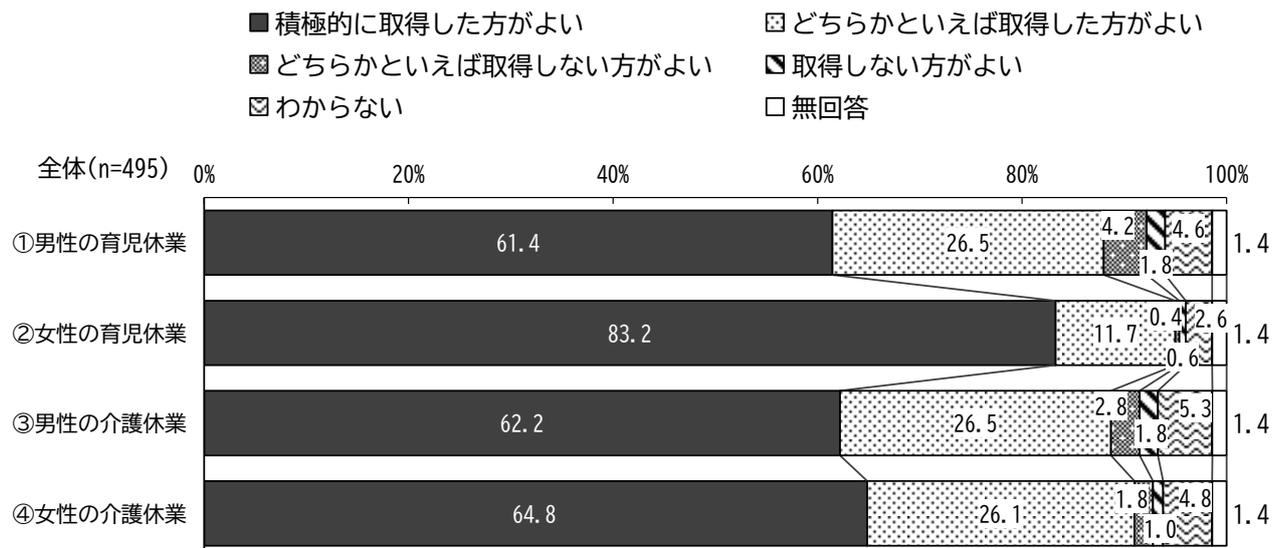
全体では、「保育・介護・家事などにおける配偶者などの家族の支援が十分ではないこと」が56.0%で最も多く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分でないこと」が44.2%、「長時間労働の改善が十分でないこと」が42.0%などとなっています。前回調査との比較では、「長時間労働の改善が十分でないこと」「企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること」などの割合が増加しています。

男女別の比較では、上位にあげられた項目は、総じて男性よりも女性の回答割合が高くなっており、特に「保育・介護・家事などにおける配偶者などの家族の支援が十分ではないこと」で男女差が大きくなっています。



Q12 法律に基づき、育児や家族介護を行うために休業を取得できる制度があります。この育児休業や介護休業を取得することについて、あなたはどのように思いますか。(それぞれについて、○は1つずつ)

全体では、「積極的に取得した方がよい」は、「②女性の育児休業」が83.2%と特に高くなっています。「積極的に取得した方がよい」(ア)と「どちらかといえば取得した方がよい」(イ)を合わせた『取得した方がよい』の割合は、高いものから「②女性の育児休業」、「④女性の介護休業」、「③男性の介護休業」、「①男性の育児休業」の順となっています。

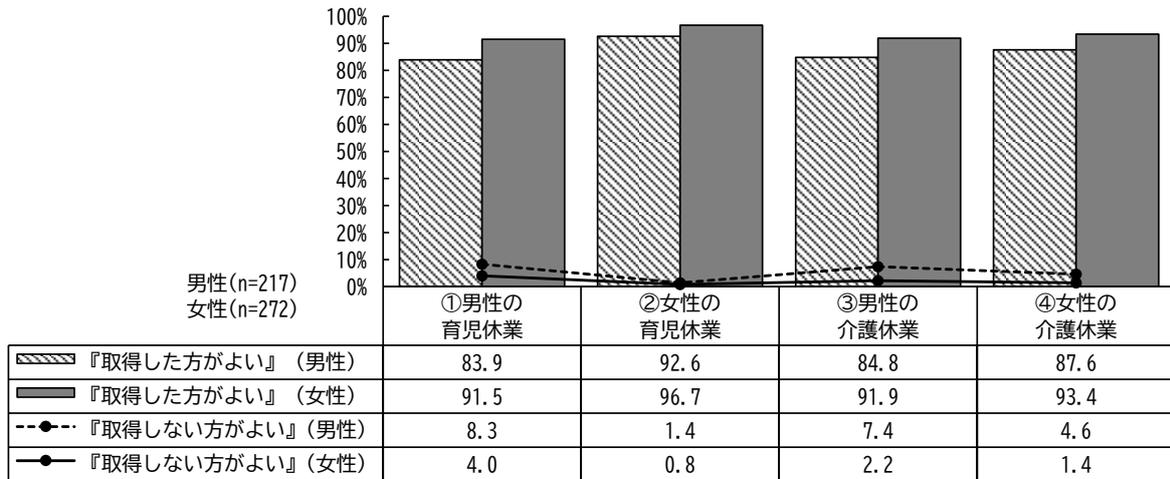


	ア	イ	ウ	エ	わからない	無回答
全体(n=495)	積極的に取得した方がよい	どちらかといえば取得した方がよい	どちらかといえば取得しない方がよい	取得しない方がよい		
①男性の育児休業	61.4	26.5	4.2	1.8	4.6	1.4
②女性の育児休業	83.2	11.7	0.4	0.6	2.6	1.4
③男性の介護休業	62.2	26.5	2.8	1.8	5.3	1.4
④女性の介護休業	64.8	26.1	1.8	1.0	4.8	1.4

全体(n=495)	ア+イ 『取得した方がよい』	エ+オ 『取得しない方がよい』
①男性の育児休業	87.9	6.0
②女性の育児休業	94.9	1.0
③男性の介護休業	88.7	4.6
④女性の介護休業	90.9	2.8

【男女別】

男女別の比較では、男性よりも女性で『取得した方がよい』の割合が高くなっています。



【前回比較】

前回調査との比較では、「①男性の育児休業」で『取得した方がよい』の割合が増加しています。

	『取得した方がよい』(今回)	『取得した方がよい』(前回)	増減	『取得しない方がよい』(今回)	『取得しない方がよい』(前回)	増減
全体(n=495)						
①男性の育児休業	87.9	81.8	↑ 6.1	6.0	9.5	↓ -3.5
②女性の育児休業	94.9	94.5	↔ 0.4	1.0	1.9	↓ -0.9
③男性の介護休業	88.7	87.6	↔ 1.1	4.6	5.1	↓ -0.5
④女性の介護休業	90.9	91.2	↓ -0.3	2.8	3.1	↓ -0.3

【前回比較－男女別】

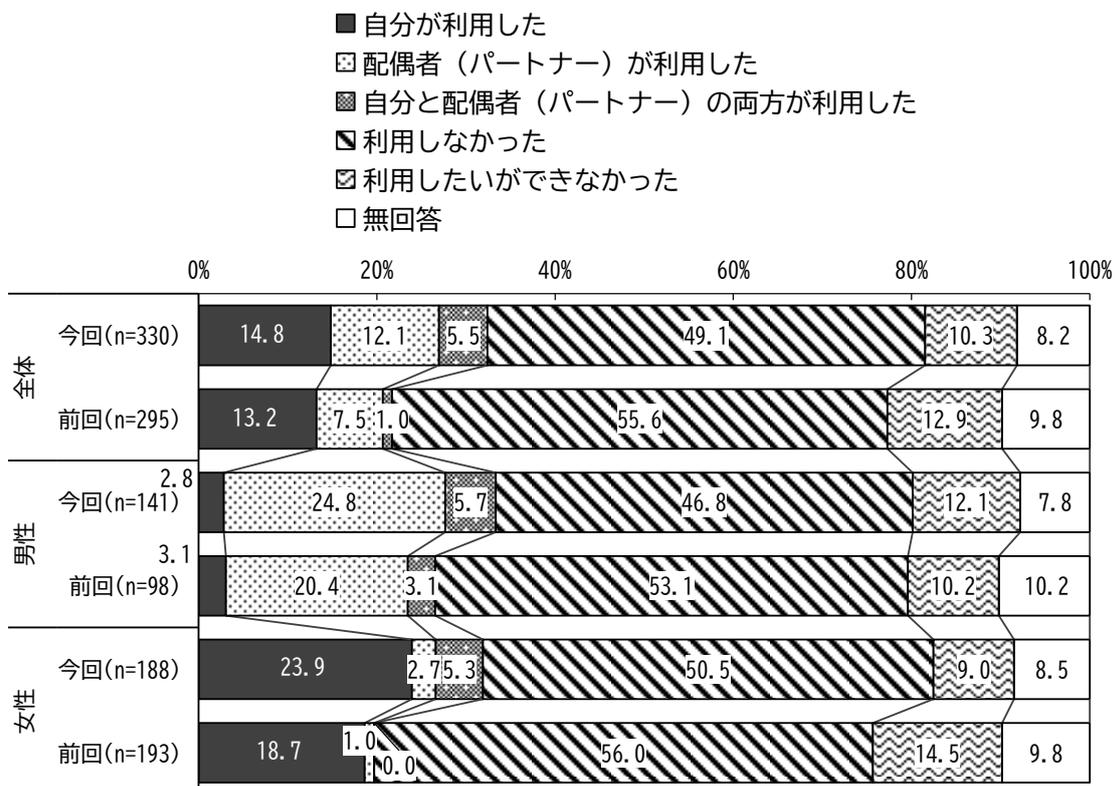
男女ともに、前回調査との比較では、「①男性の育児休業」で『取得した方がよい』の割合が増加しています。

	『取得した方がよい』(今回)	『取得した方がよい』(前回)	増減	『取得しない方がよい』(今回)	『取得しない方がよい』(前回)	増減
男性(n=217)						
①男性の育児休業	83.9	78.7	↑ 5.2	8.3	12.5	↓ -4.2
②女性の育児休業	92.6	92.7	↓ -0.1	1.4	2.9	↓ -1.5
③男性の介護休業	84.8	84.5	↔ 0.3	7.4	7.3	↔ 0.1
④女性の介護休業	87.6	90.5	↓ -2.9	4.6	2.9	↔ 1.7
女性(n=272)						
①男性の育児休業	91.5	84.0	↑ 7.5	4.0	7.5	↓ -3.5
②女性の育児休業	96.7	95.1	↔ 1.6	0.8	1.5	↓ -0.7
③男性の介護休業	91.9	89.7	↔ 2.2	2.2	3.7	↓ -1.5
④女性の介護休業	93.4	91.8	↔ 1.6	1.4	2.9	↓ -1.5

Q13 F4で「子どもがいる」と回答した方に伺います。あなた、または、あなたの配偶者（パートナー）は育児休業制度を利用したことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

全体では、「利用しなかった」が49.1%で最も多く、次いで「自分が利用した」が14.8%、「配偶者（パートナー）が利用した」が12.1%、「利用したいができなかった」が10.3%、「自分と配偶者（パートナー）の両方が利用した」が5.5%となっています。前回調査との比較では、「自分が利用した」「配偶者（パートナー）が利用した」「自分と配偶者（パートナー）の両方が利用した」の割合が増加しています。

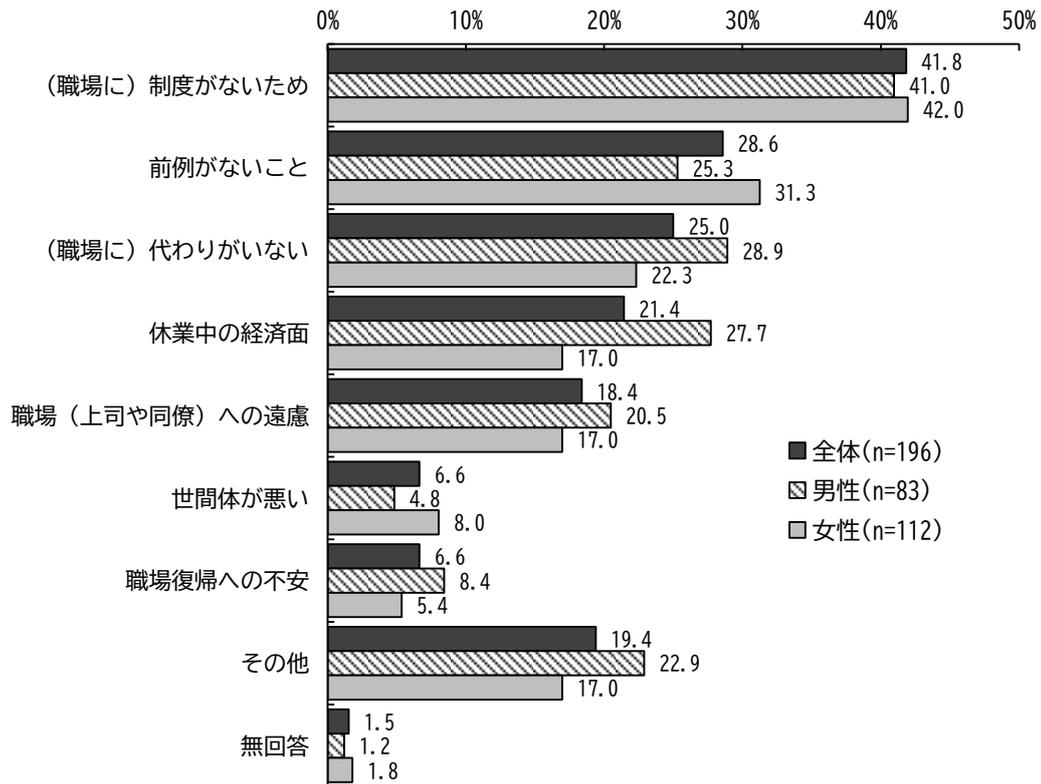
男女別の比較では、男性で「配偶者（パートナー）が利用した」、女性で「自分が利用した」の割合が高くなっています。また、前回調査と比較すると、男女とも「利用しなかった」の割合が減少する一方、「自分と配偶者（パートナー）の両方が利用した」が増加しています。加えて、男性では「配偶者（パートナー）が利用した」、女性では「自分が利用した」の割合がそれぞれ増加しています。



Q13-1 Q13 で「4 利用しなかった」・「5 利用したいができなかった」と回答した方に伺います。あなた、または、あなたの配偶者（パートナー）が、育児休業制度を利用できなかった理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体では、「(職場に)制度がないため」が41.8%で最も多く、次いで「前例がないこと」が28.6%、「(職場に)代わりがない」が25.0%などとなっています。

男女別の比較では、男性で「(職場に)代わりがない」「休業中の経済面」、女性で「前例がないこと」などの割合が比較的高くなっています。



※「その他」に記入のあった主な内容：「自営業のため」「仕事をしていなかった」「妻が専業主婦」など

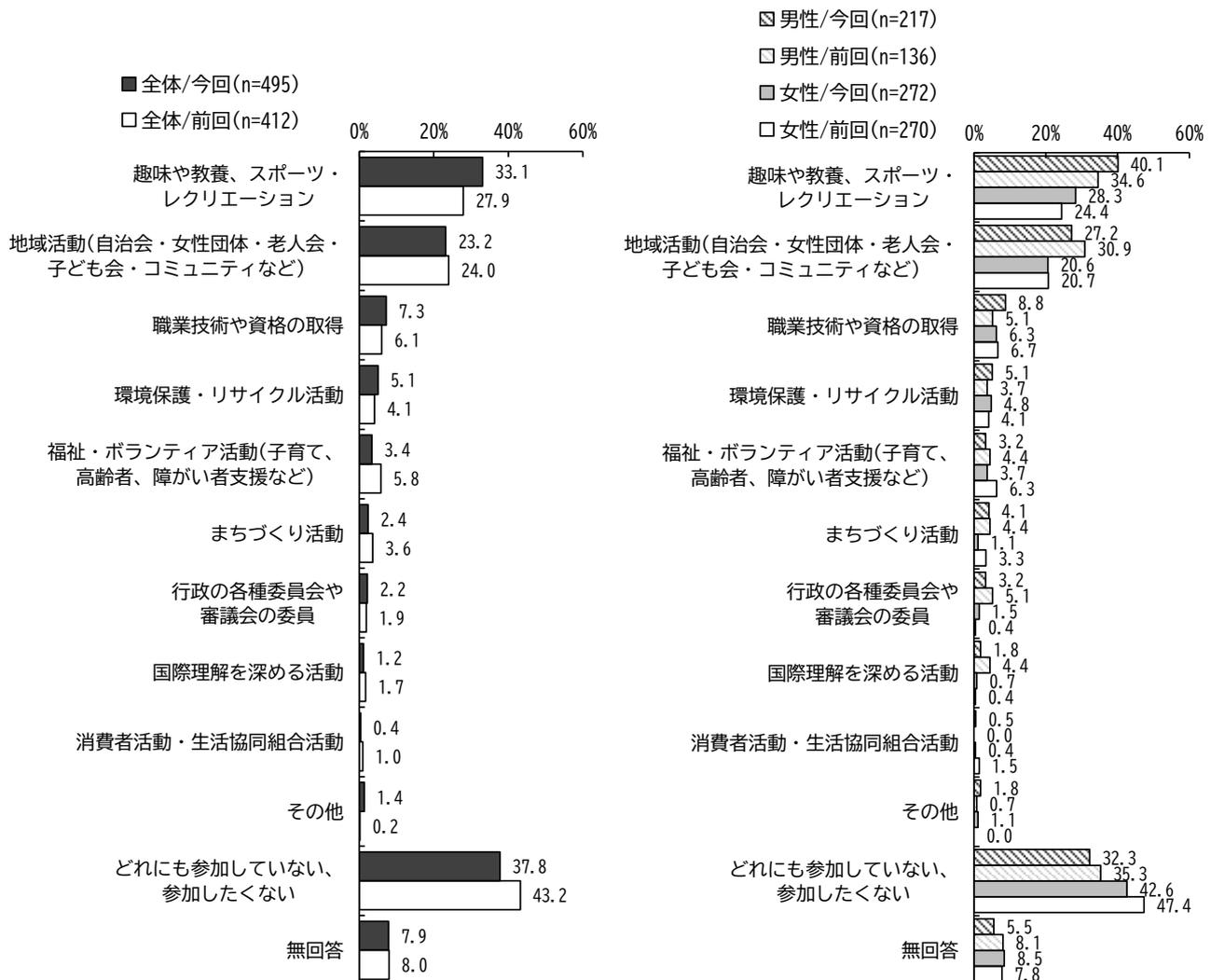
5 社会活動について

Q14 あなたが現在、①仕事以外に参加している活動と②今後新たに参加したい活動は何か。(①～②のそれぞれについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。)

①参加している活動

全体では、「どれにも参加していない、参加したくない」を除き、「趣味や教養、スポーツ・レクリエーション」が33.1%で最も多く、次いで「地域活動(自治会・女性団体・老人会・子ども会・コミュニティなど)」が23.2%、「職業技術や資格の取得」が7.3%などとなっています。前回調査との比較では、「どれにも参加していない、参加したくない」の割合が減少し、「趣味や教養、スポーツ・レクリエーション」が増加しています。

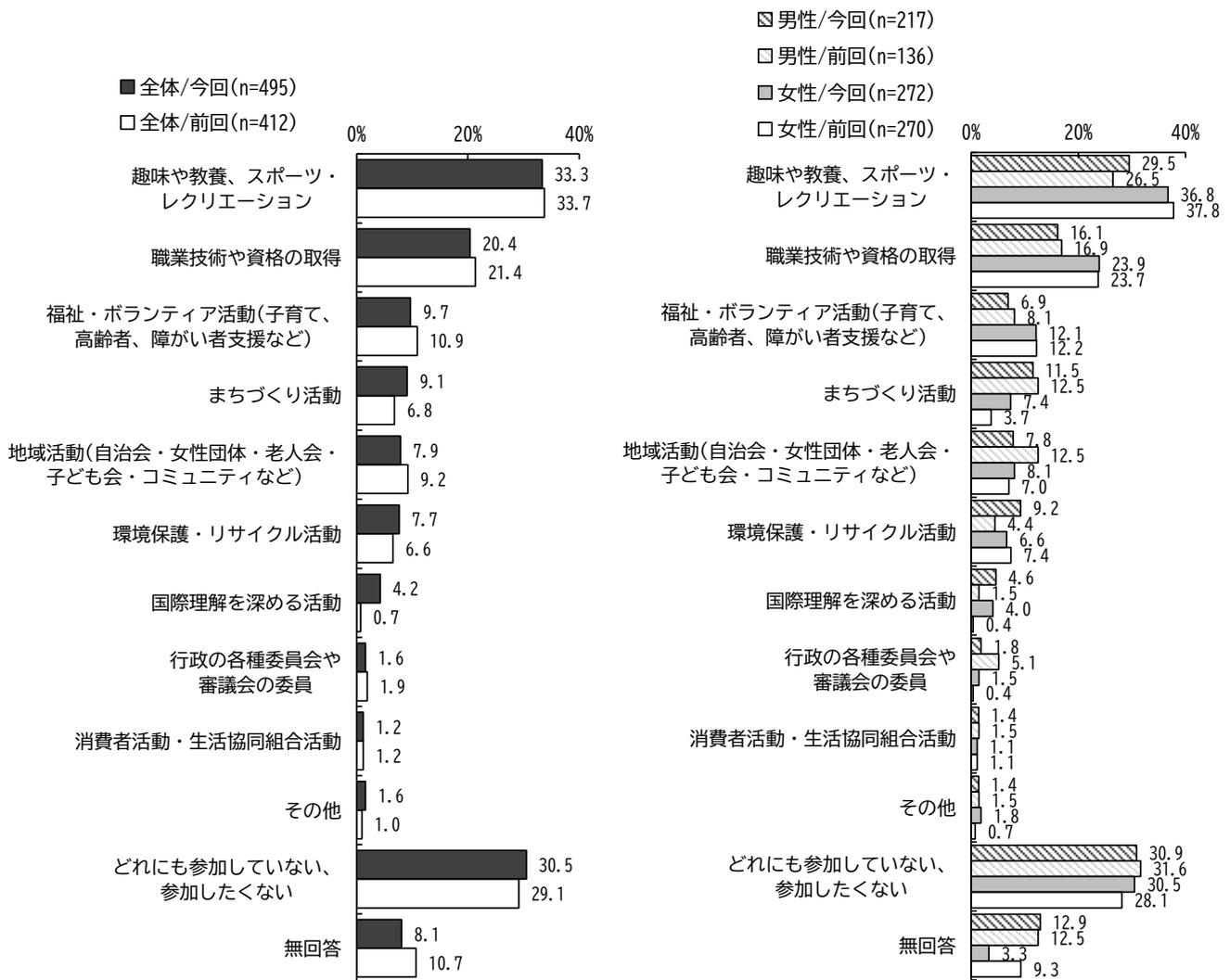
男女別の比較では、男性で「趣味や教養、スポーツ・レクリエーション」「地域活動(自治会・女性団体・老人会・子ども会・コミュニティなど)」の割合が高く、女性は「どれにも参加していない、参加したくない」が比較的高くなっています。また、前回調査と比較すると、「趣味や教養、スポーツ・レクリエーション」の割合が男女ともに増加しているものの、男性で「地域活動(自治会・女性団体・老人会・子ども会・コミュニティなど)」が減少しています。



②今後、参加したい活動

全体では、「趣味や教養、スポーツ・レクリエーション」が33.3%で最も多く、次いで「どれにも参加していない、参加したくない」を除き、「職業技術や資格の取得」が20.4%、「福祉・ボランティア活動(子育て、高齢者、障がい者支援など)」が9.7%などとなっています。前回調査との比較では、「国際理解を深める活動」が微増となっています。

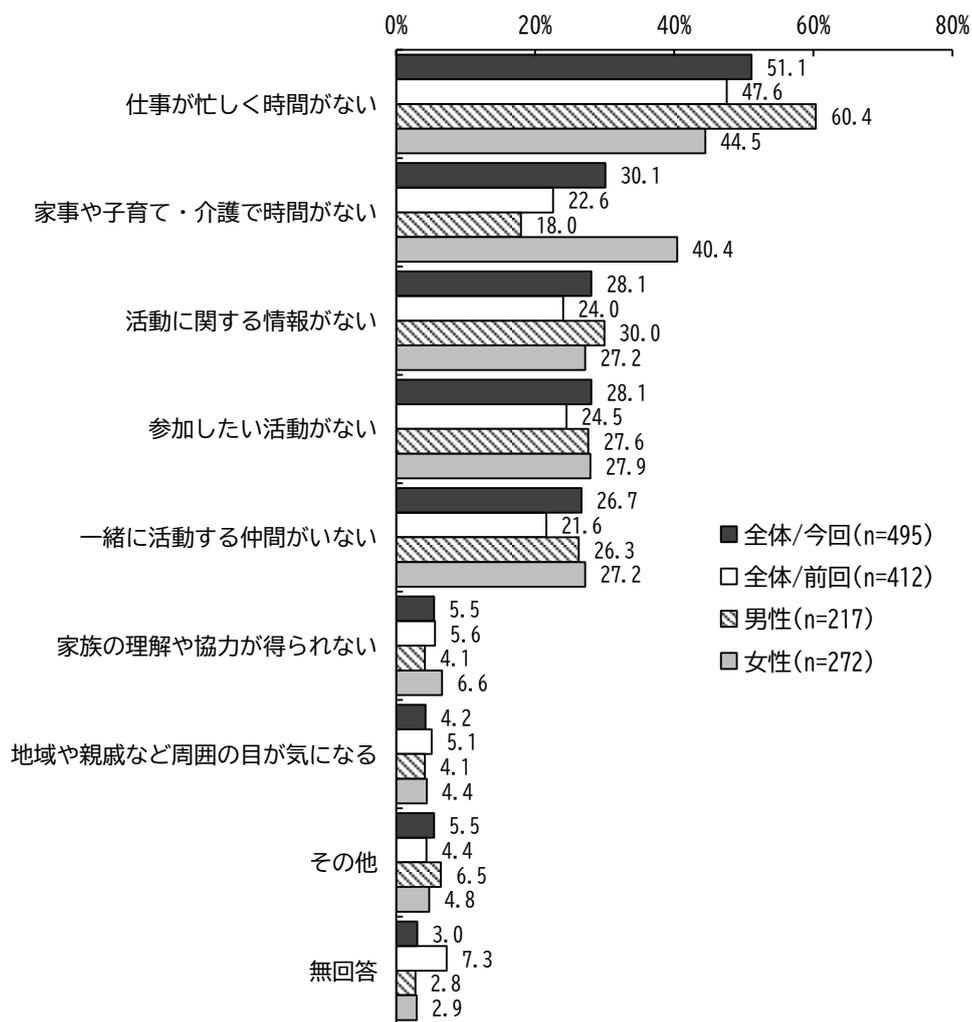
男女別の比較では、女性で「趣味や教養、スポーツ・レクリエーション」「職業技術や資格の取得」「福祉・ボランティア活動(子育て、高齢者、障がい者支援など)」、男性で「まちづくり活動」の割合が比較的高くなっています。また、前回調査と比較すると、男性で「地域活動(自治会・女性団体・老人会・子ども会・コミュニティなど)」が減少しています。



Q15 あなたが社会活動をしようとする場合、さまざまとなるであろうと思われることがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体では、「仕事が忙しく時間がない」が51.1%で最も多く、次いで「家事や子育て・介護で時間がない」が30.1%、「活動に関する情報がない」と「参加したい活動がない」がともに28.1%などとなっています。前回調査との比較では、「家事や子育て・介護で時間がない」の割合の増加がやや大きくなっています。

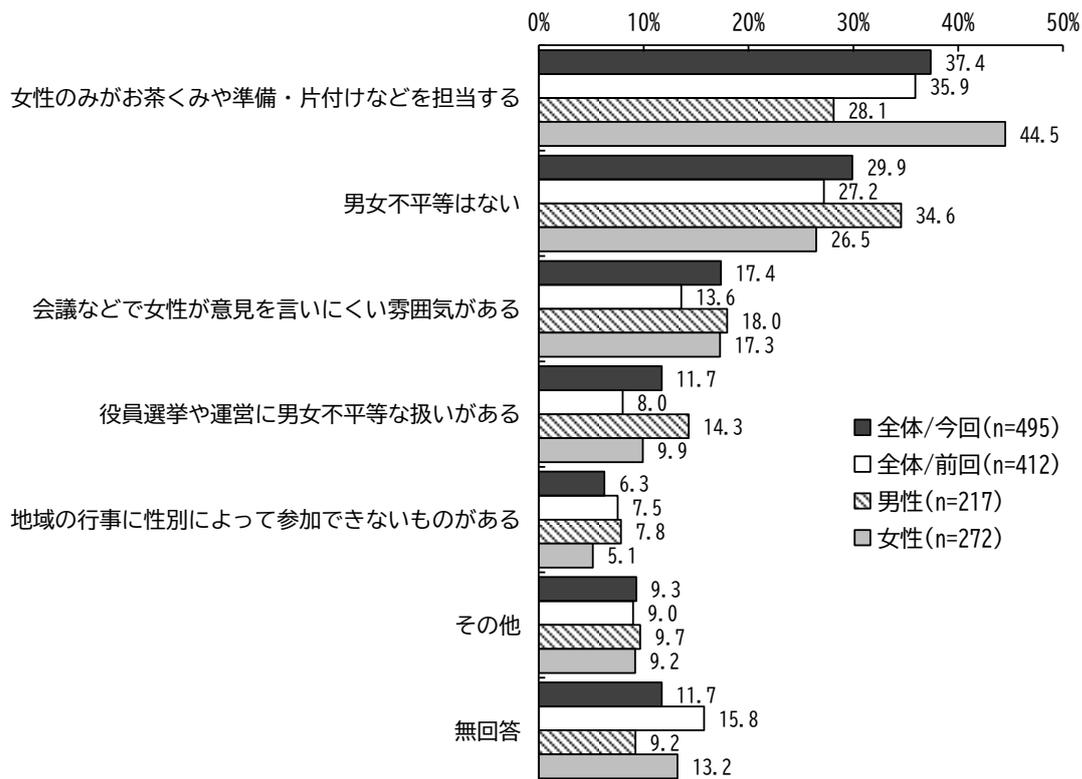
男女別の比較では、男性で「仕事が忙しく時間がない」、女性で「家事や子育て・介護で時間がない」の割合が特に高くなっています。



Q16 あなたが住んでいる地域において男女が不平等であると思うことがありますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体では、「女性のみがお茶くみや準備・片付けなどを担当する」が37.4%で最も多く、次いで「男女不平等はない」が29.9%、「会議などで女性が意見を言いにくい雰囲気がある」が17.4%などとなっています。前回調査との比較では、「男女不平等はない」の割合が微増となっている一方、「会議などで女性が意見を言いにくい雰囲気がある」なども増加しています。

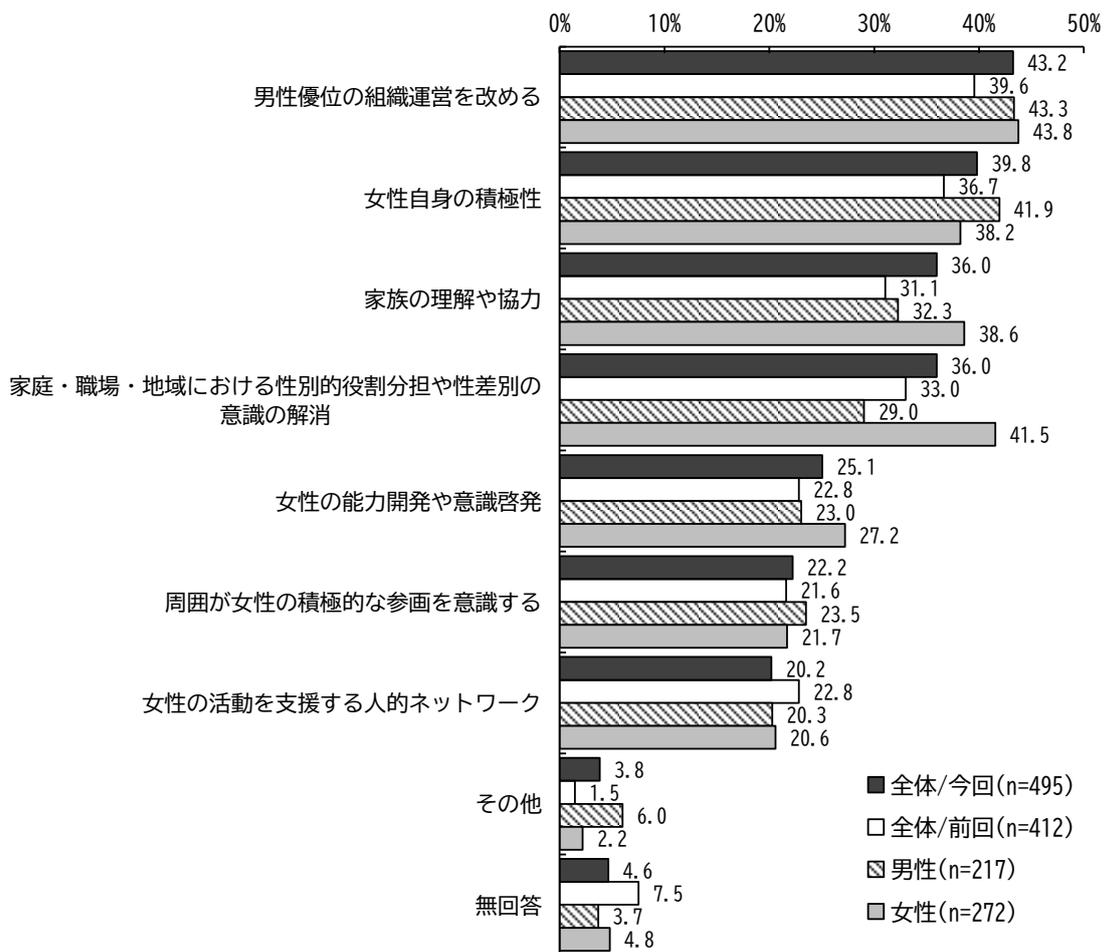
男女別の比較では、女性で「女性のみがお茶くみや準備・片付けなどを担当する」、男性で「男女不平等はない」「役員選挙や運営に男女不平等な扱いがある」の割合が高くなっています。



Q17 自治会の長、審議会委員や議員等に就く女性が増えるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体では、「男性優位の組織運営を改める」が43.2%で最も多く、次いで「女性自身の積極性」が39.8%、「家族の理解や協力」と「家庭・職場・地域における性別的役割分担や性差別の意識の解消」がともに36.0%などとなっています。前回調査との比較では、「家族の理解や協力」の割合の増加がやや大きくなっています。

男女別の比較では、女性で「家庭・職場・地域における性別的役割分担や性差別の意識の解消」「家族の理解や協力」などの割合が特に高くなっています。



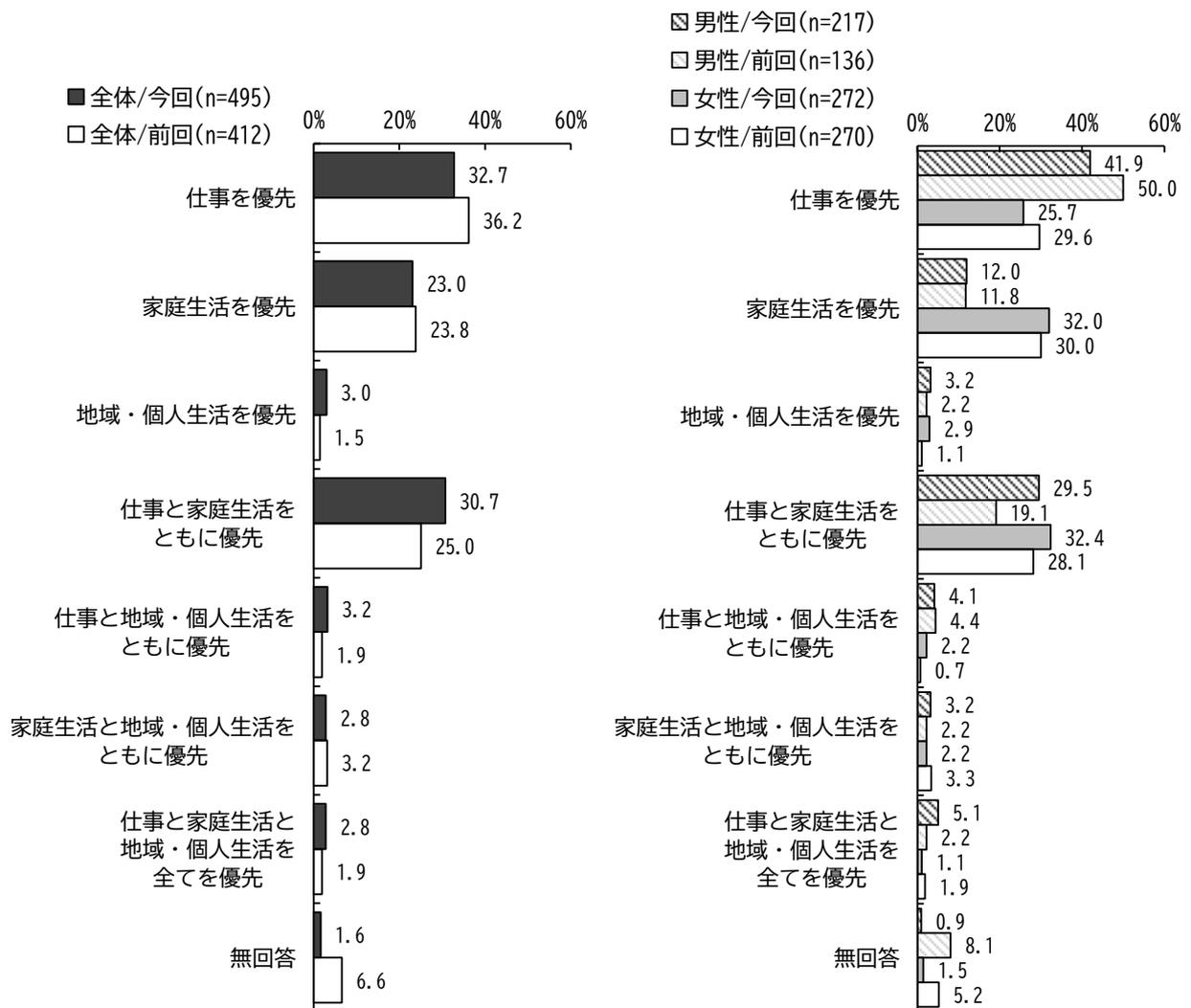
6 生活の優先度について

Q18 あなたの生活は、次のどれにあてはまりますか。①実際の生活と②理想の生活のそれぞれについて、1つずつ○をつけてください。

①実際の生活

全体では、「仕事を優先」が32.7%で最も多く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先」が30.7%、「家庭生活を優先」が23.0%などとなっています。前回調査との比較では、「仕事を優先」の割合が微減する一方、「仕事と家庭生活をともに優先」が増加しています。

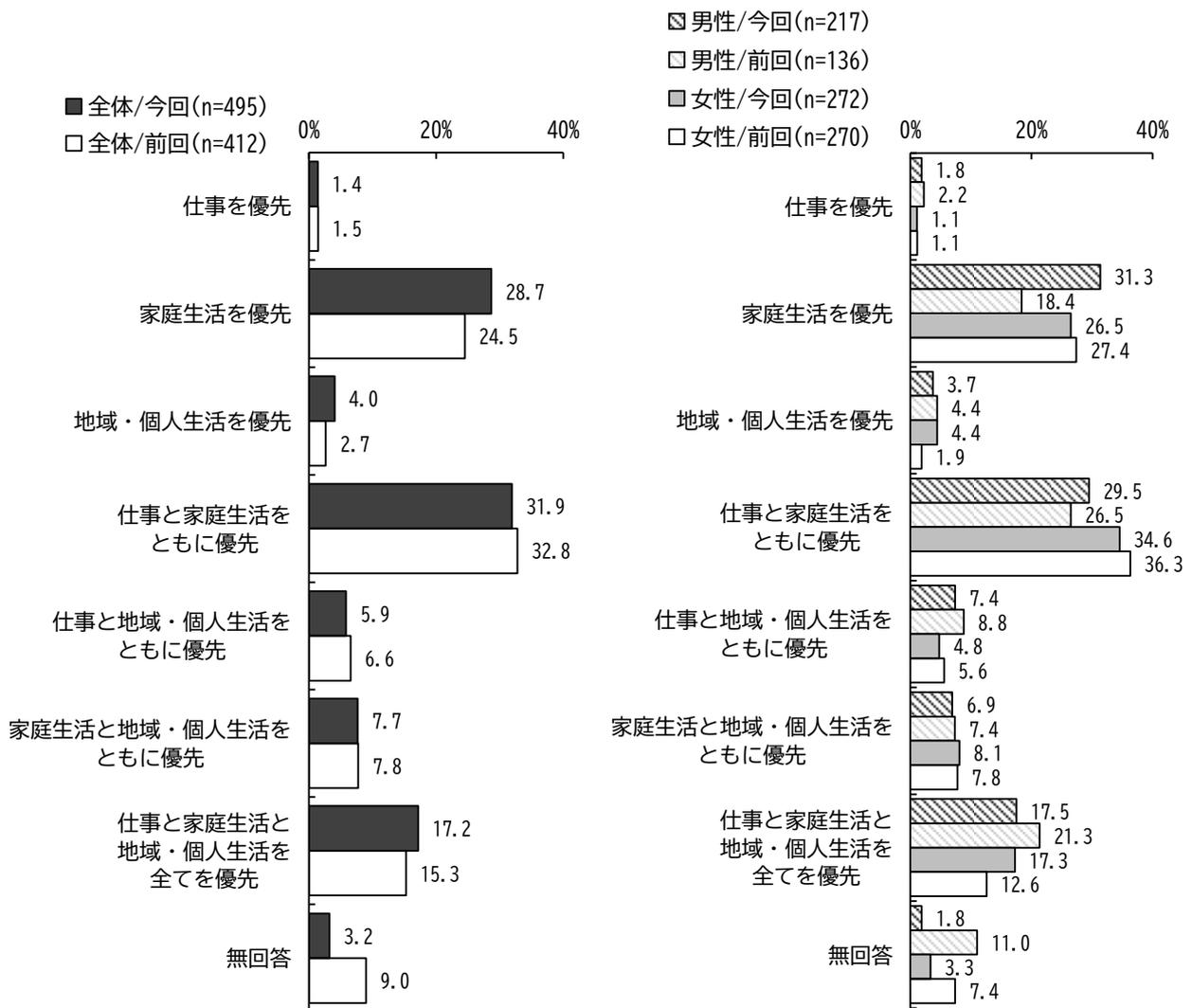
男女別の比較では、男性で「仕事を優先」、女性で「家庭生活を優先」の割合が高くなっています。また、前回調査と比較すると、男性では「仕事を優先」の割合が減少する一方、「仕事と家庭生活をともに優先」が増加しています。



②理想の生活

全体では、「仕事と家庭生活をともに優先」が31.9%で最も多く、次いで「家庭生活を優先」が28.7%、「仕事と家庭生活と地域・個人生活を全てを優先」が17.2%などとなっています。前回調査との比較では、「家庭生活を優先」の割合が増加しています。

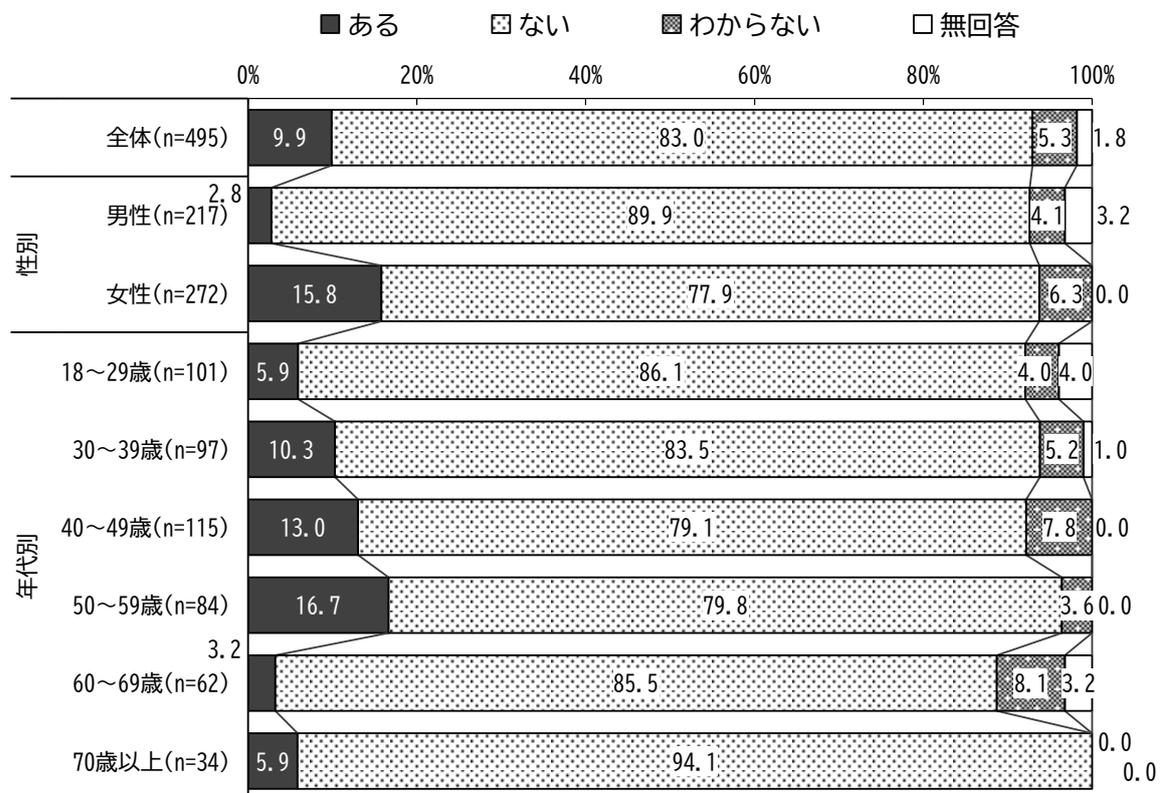
男女別の比較では、男性で「家庭生活を優先」、女性で「仕事と家庭生活をともに優先」の割合が高くなっています。また、前回調査と比較すると、男性で「家庭生活を優先」の割合が大きく増加しています。



7 ドメスティック・バイオレンス（DV）やハラスメント等について

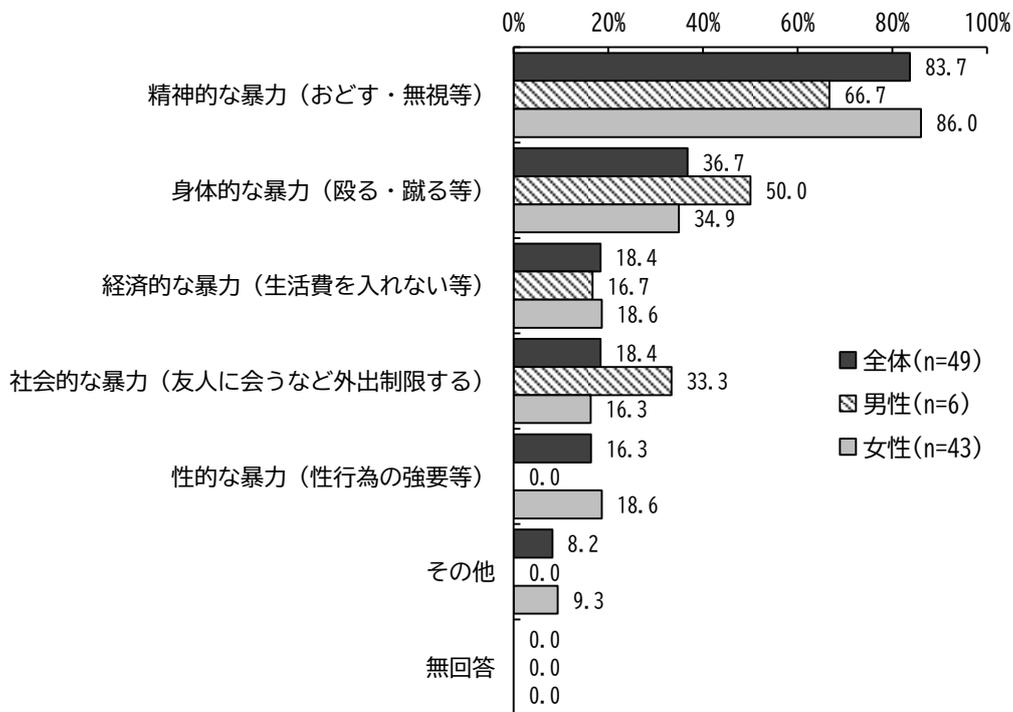
Q19 あなたは、配偶者（元配偶者を含む）やパートナー、恋人などから DV（身体的暴力、性的暴力、精神的暴力、経済的暴力）を受けた経験がありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

全体では、「ある」が9.9%に対し、「ない」が83.0%、「わからない」が5.3%となっています。
 男女別の比較では、女性で「ある」の割合が高くなっています。
 年代別の比較では、50歳代までは段階的に「ある」の割合が高くなっています。



Q19-1 Q19で「1 ある」に○をつけた方に伺います。その暴力はどのようなものですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

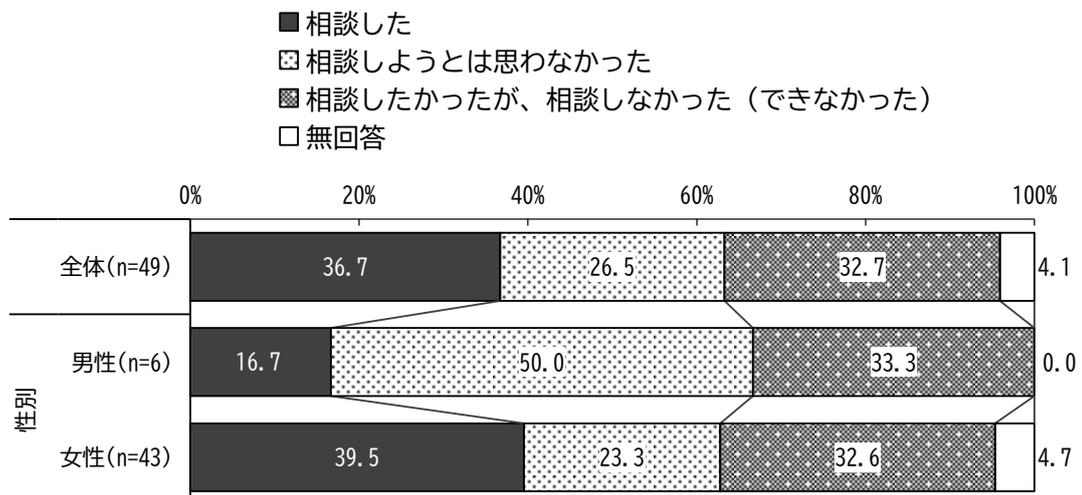
全体では、「精神的な暴力（おどす・無視等）」が83.7%で最も多く、次いで「身体的な暴力（殴る・蹴る等）」が36.7%、「経済的な暴力（生活費を入れない等）」と「社会的な暴力（友人に会うなど外出制限する）」が18.4%などとなっています。



Q19-2 Q19で「1 ある」に○をつけた方に伺います。あなたはDVの被害にあったときに誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

全体では、「相談した」が36.7%に対し、「相談しようとは思わなかった」が26.5%、「相談したかったが、相談しなかった（できなかった）」が32.7%となっています。

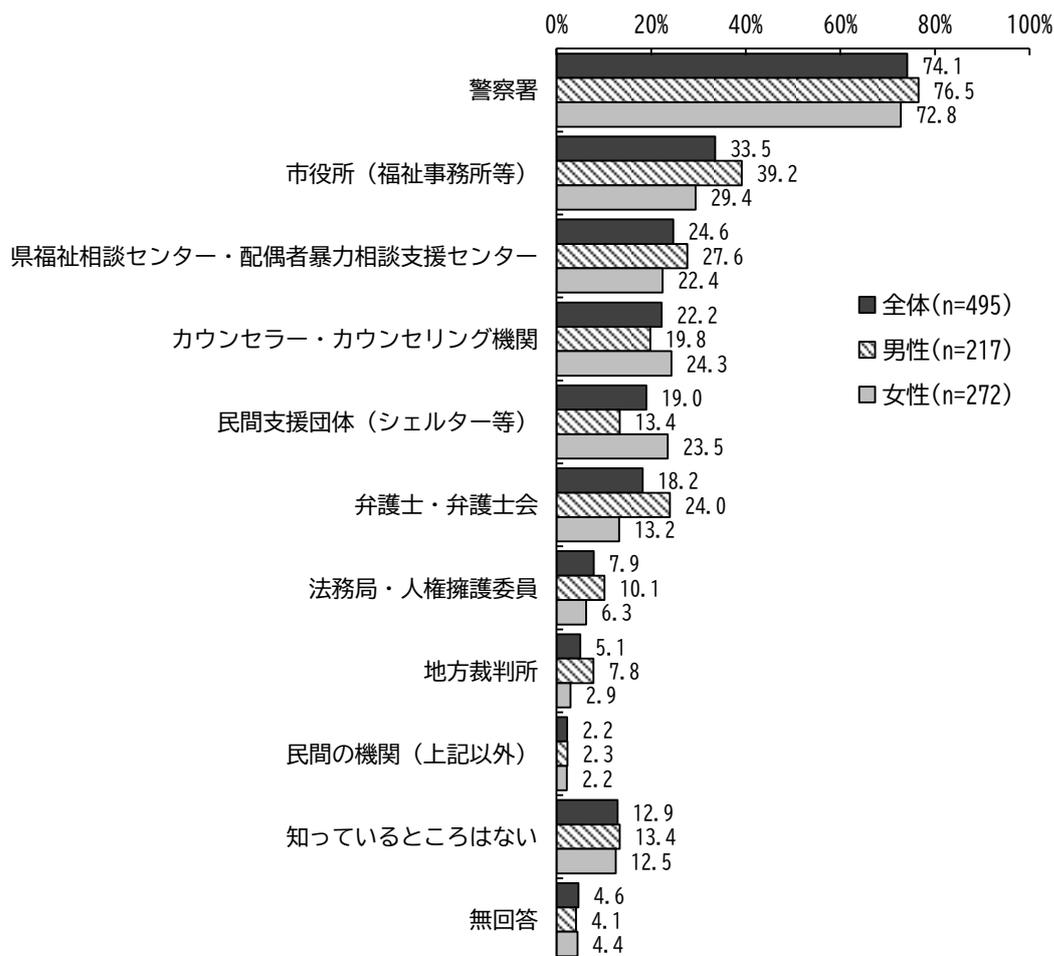
男女別の比較では、サンプル数が少ないため正確な比較はできないものの、女性で「相談した」の割合が高くなっています。



Q20 あなたはDVについて相談できる窓口にはどのようなものがあるかご存知ですか。
知っているものすべてに○をつけてください。

全体では、「警察署」が74.1%で最も多く、次いで「市役所（福祉事務所等）」が33.5%、「県福祉相談センター・配偶者暴力相談支援センター」が24.6%などとなっています。

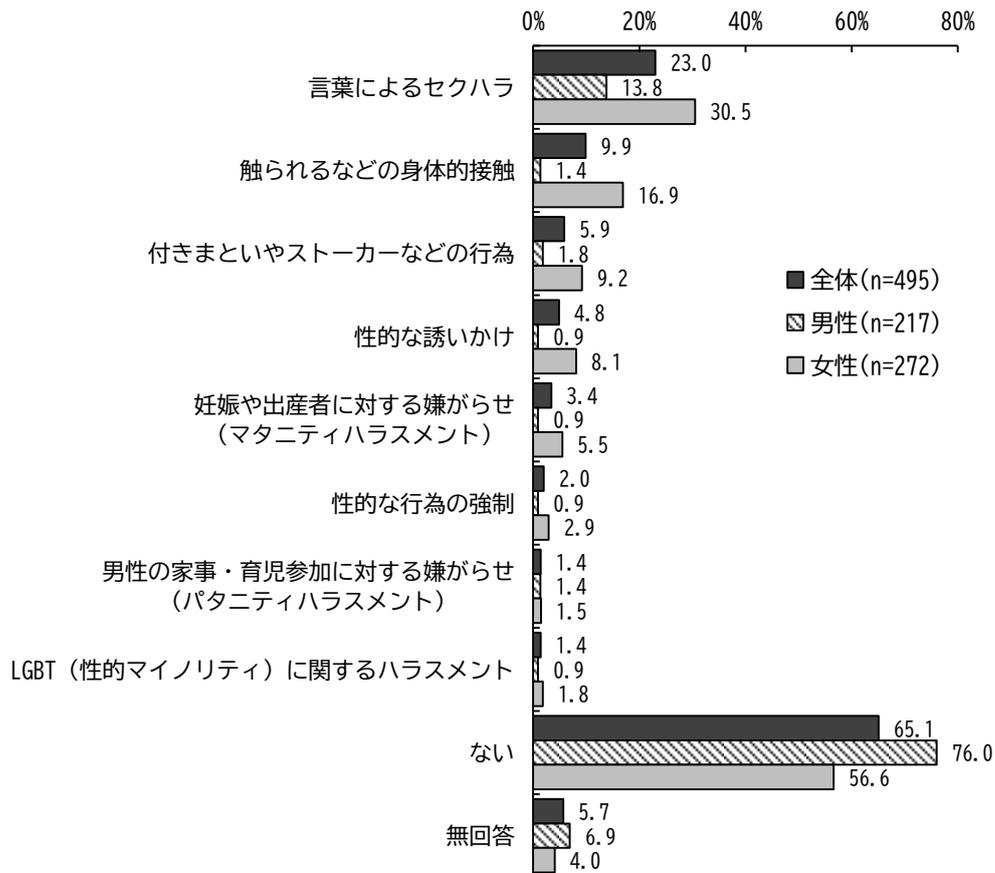
男女別の比較では、男性で「市役所（福祉事務所等）」「弁護士・弁護士会」、女性で「民間支援団体（シェルター等）」の割合が比較的高くなっています。



Q21 あなたは身近なところで、次のようなハラスメント等を経験したことはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

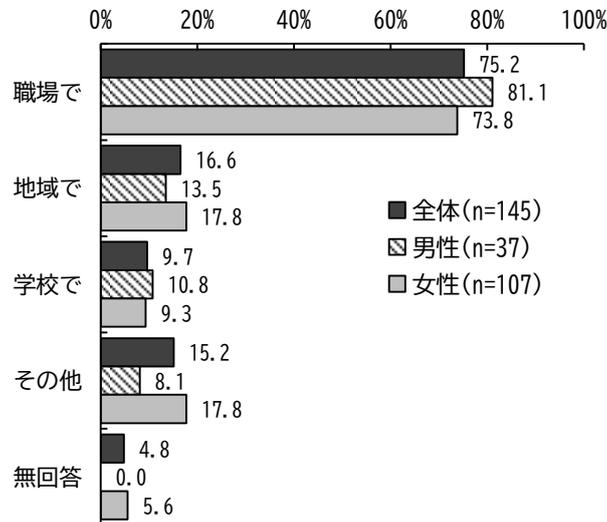
全体では、「ない」が65.1%となっており、約3人に1人が何らかのハラスメント等を経験したことがあると回答しています。上位にあげられたのは、「言葉によるセクハラ」が23.0%で最も多く、次いで「触られるなどの身体的接触」が9.9%、「付きまといやストーカーなどの行為」が5.9%などとなっています。

男女別の比較では、女性で「ない」の割合が男性より低く、何らかのハラスメント等を経験したことがある人の割合が高くなっています。



Q21-1 Q21で「1」～「8」のいずれかに○をつけた方に伺います。それはどこで行われましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体では、「職場で」が75.2%で最も多く、次いで「地域で」が16.6%、「学校で」が9.7%となっています。

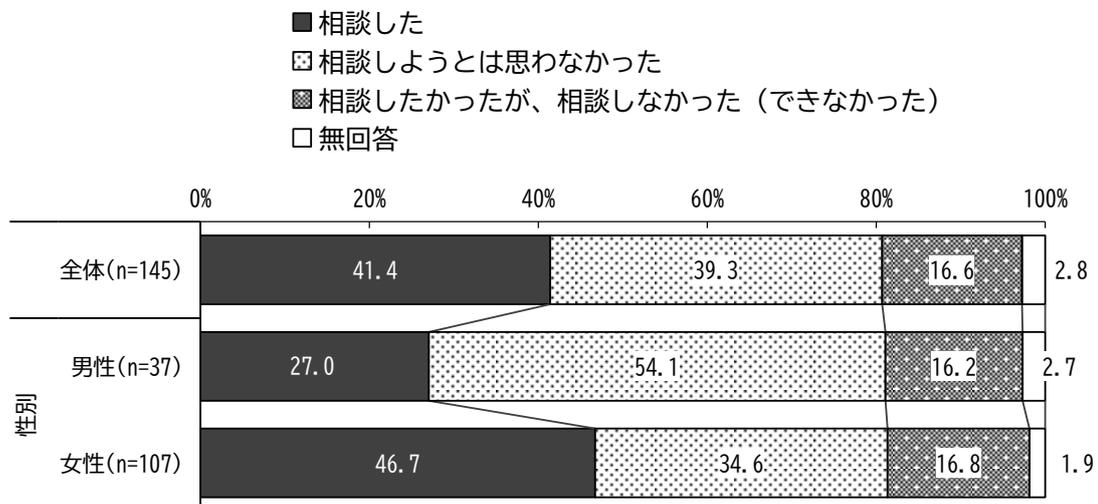


※「その他」に記入のあった主な内容：「通勤中」「自宅」「SNS上で」など

Q21-2 Q21で「1」～「8」のいずれかに○をつけた方に伺います。あなたの受けた行為について、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

全体では、「相談した」が41.4%に対し、「相談しようとは思わなかった」が39.3%、「相談したかったが、相談しなかった（できなかった）」が16.6%となっています。

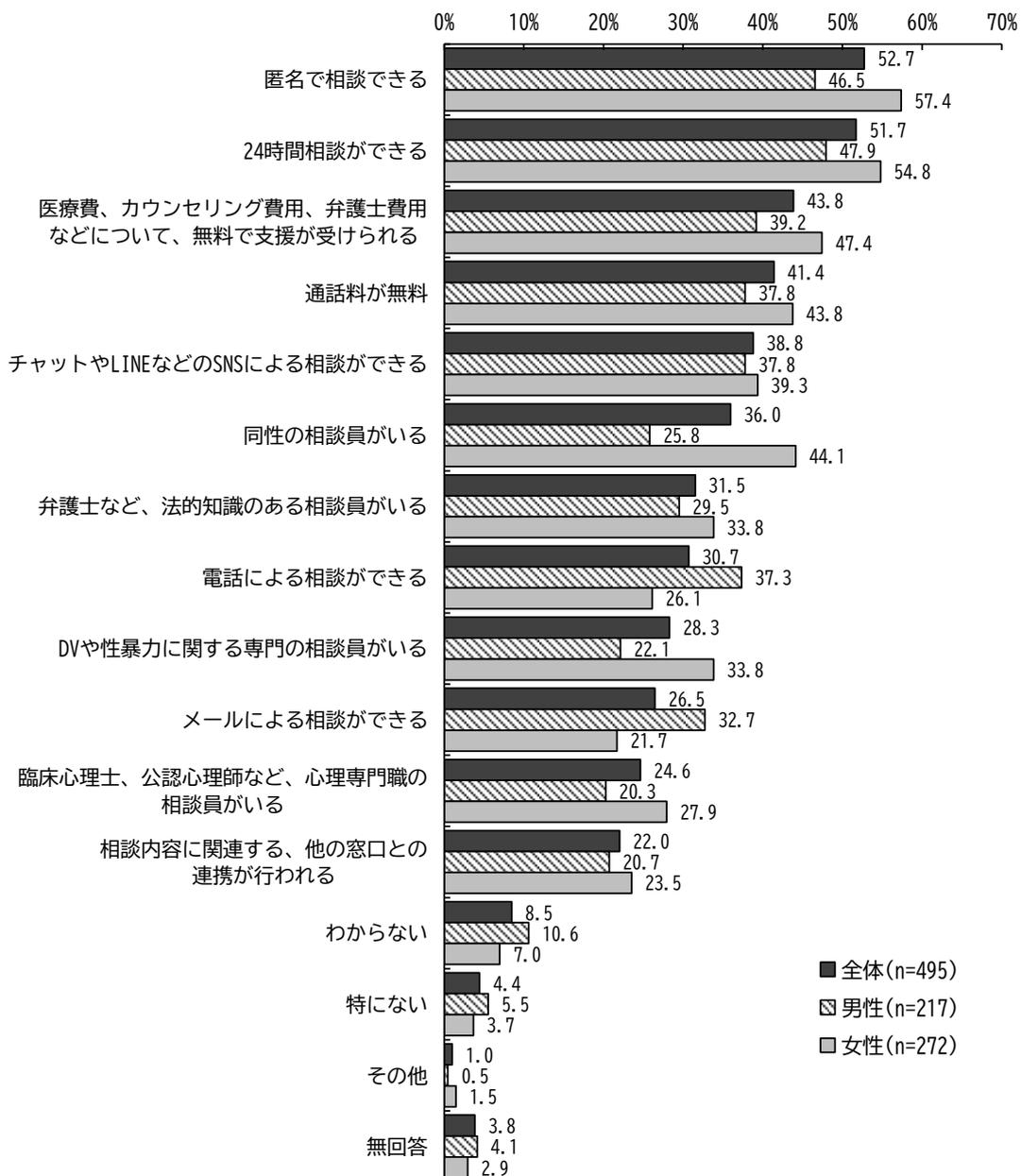
男女別の比較では、女性で「相談した」の割合が高くなっています。



Q22 DVやハラスメント等に関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体では、「匿名で相談できる」が52.7%で最も多く、次いで「24時間相談ができる」が51.7%、「医療費、カウンセリング費用、弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる」が43.8%などとなっています。

男女別の比較では、総じて女性の回答割合が高くなっているものの、女性では特に「同性の相談員がいる」の割合が高くなっています。また、男性では「電話による相談ができる」「メールによる相談ができる」が比較的高くなっています。

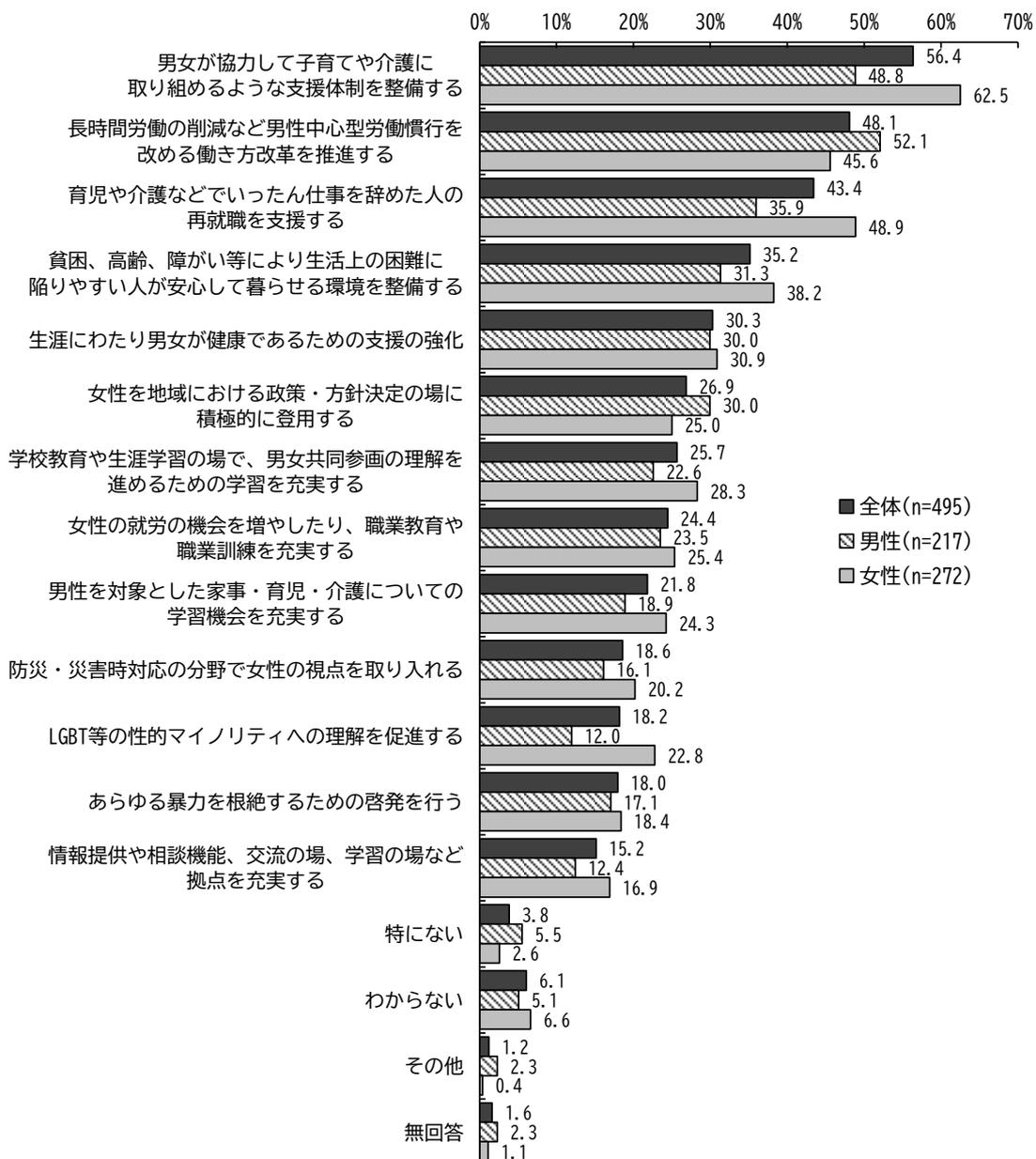


8 男女共同参画社会について

Q23 男女共同参画社会の実現に向けて、あなたは、今後どのような施策に重点をおいてほしいとお考えですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体では、「男女が協力して子育てや介護に取り組めるような支援体制を整備する」が56.4%で最も多く、次いで「長時間労働の削減など男性中心型労働慣行を改める働き方改革を推進する」が48.1%、「育児や介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が43.4%などとなっています。

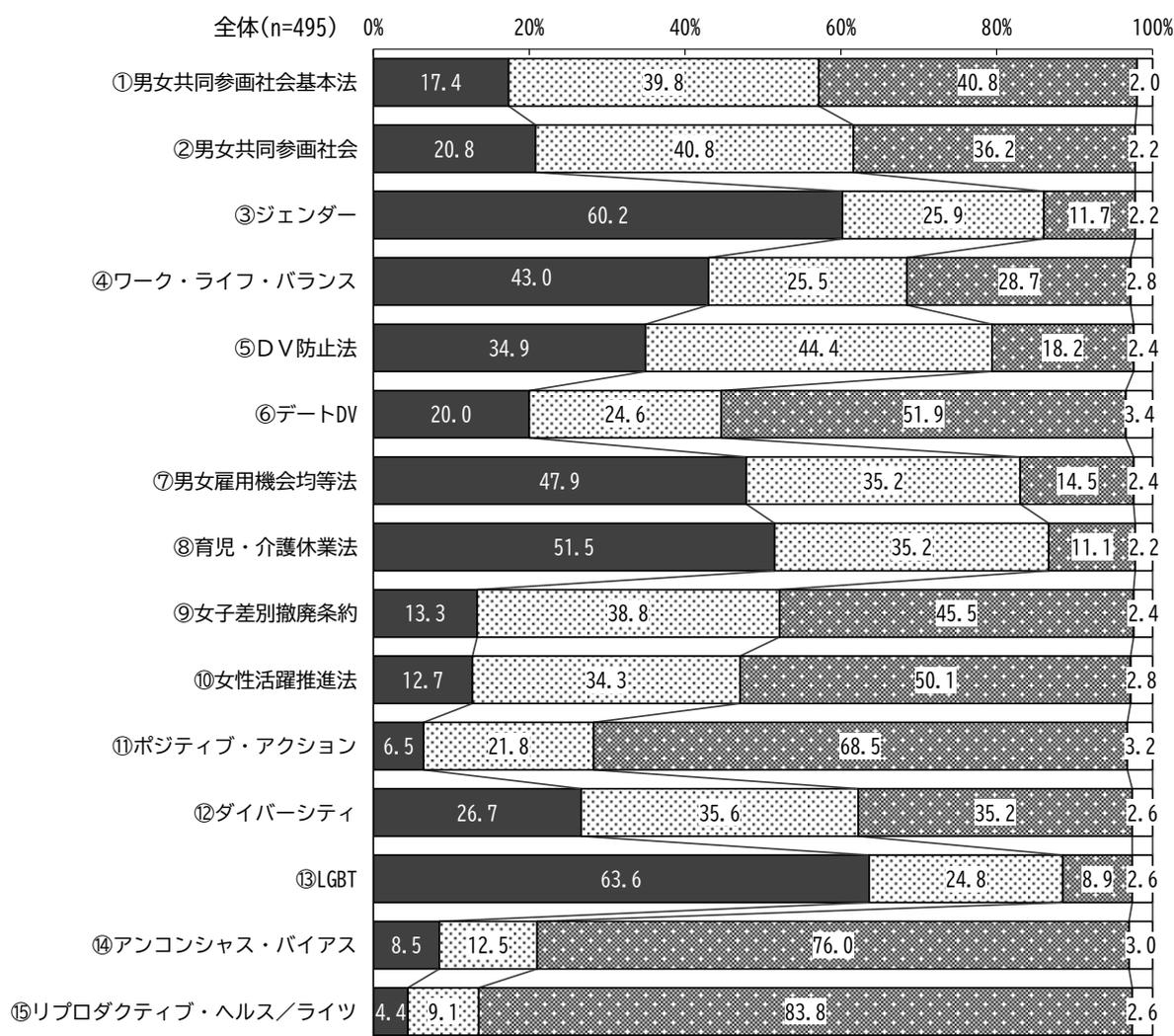
男女別の比較では、女性で「男女が協力して子育てや介護に取り組めるような支援体制を整備する」「育児や介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」、男性で「長時間労働の削減など男性中心型労働慣行を改める働き方改革を推進する」「女性を地域における政策・方針決定の場に積極的に登用する」などの割合が比較的高くなっています。



Q24 次の①～⑮のことばを知っていますか。①～⑮それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。

全体では、「内容を知っている」は、「⑬LGBT」が63.6%で最も多く、次いで「③ジェンダー」が60.2%、「⑧育児・介護休業法」が51.5%などとなっています。「内容を知っている」と「内容は知らないが聞いたことはある」を合わせた割合でも、「⑬LGBT」が最も多く、次いで「⑧育児・介護休業法」、「③ジェンダー」の順となっています。一方、「知らない」は、「⑮リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」が83.8%で最も多く、次いで「⑭アンコンシャス・バイアス」が76.0%、「⑪ポジティブ・アクション」が68.5%などとなっています。

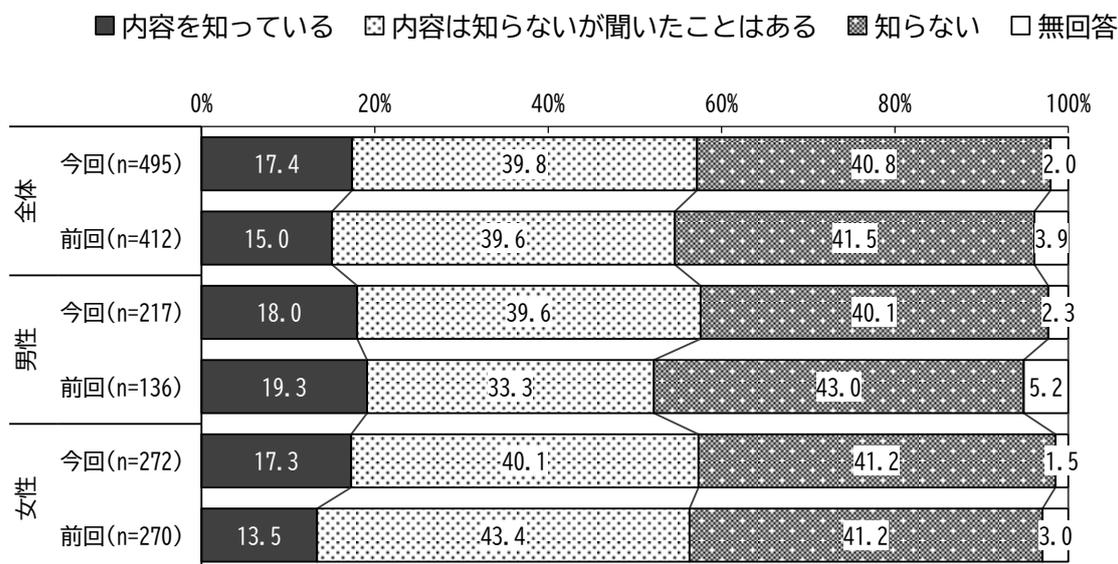
■ 内容を知っている □ 内容は知らないが聞いたことはある ■ 知らない □ 無回答



①男女共同参画社会基本法

全体では、「内容を知っている」が17.4%、「内容は知らないが聞いたことはある」が39.8%に対し、「知らない」が40.8%となっています。前回調査との比較では、「内容を知っている」の割合が微増となっているものの、大きな変化はありません。

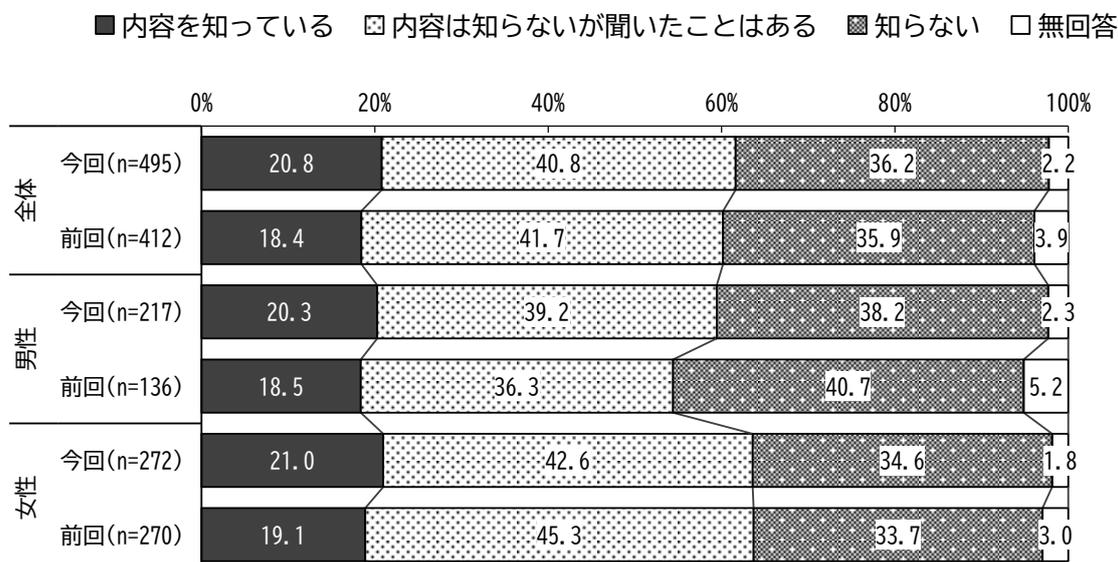
男女別の比較では顕著な差はみられないものの、前回調査と比較すると、男性で認知度がやや上がっています。



②男女共同参画社会

全体では、「内容を知っている」が20.8%、「内容は知らないが聞いたことはある」が40.8%に対し、「知らない」が36.2%となっています。前回調査との比較では、「内容を知っている」の割合が微増となっているものの、大きな変化はありません。

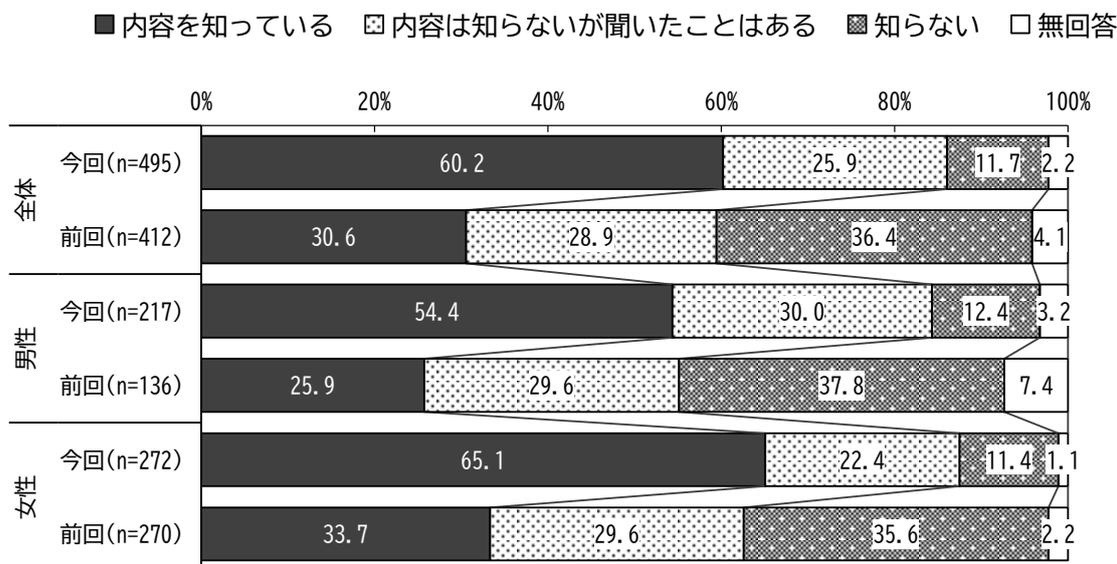
男女別の比較では、女性で「内容は知らないが聞いたことはある」の割合がやや高くなっています。また、前回調査と比較すると、男性でやや認知度が上がっています。



③ジェンダー

全体では、「内容を知っている」が60.2%、「内容は知らないが聞いたことはある」が25.9%に対し、「知らない」が11.7%となっています。前回調査との比較では、「内容を知っている」の割合が大きく増加しています。

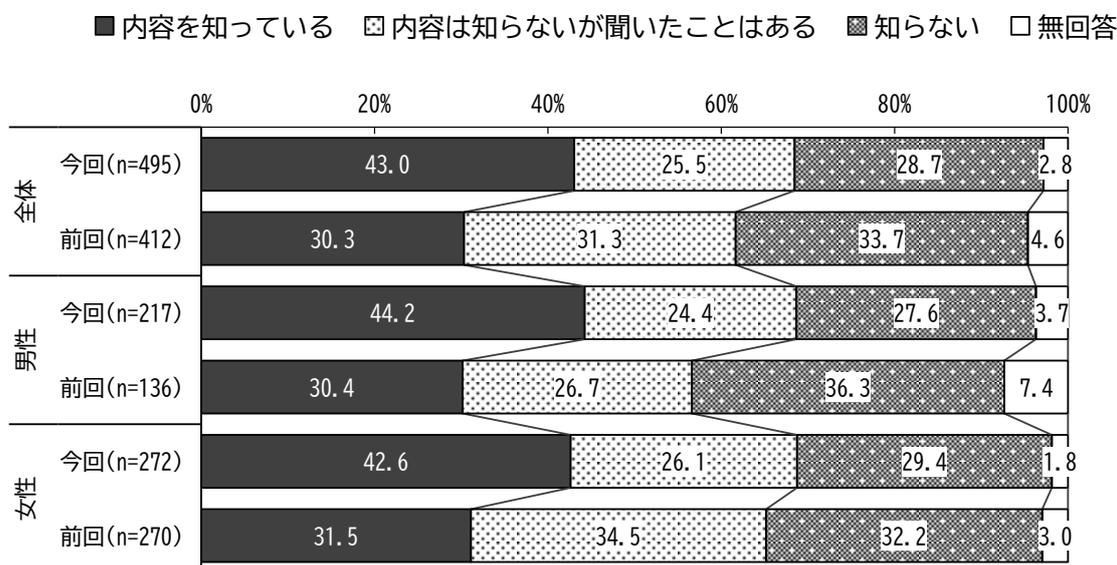
男女別の比較では、女性で「内容を知っている」の割合が高くなっています。また、前回調査と比較すると、男女ともに認知度が上がっています。



④ワーク・ライフ・バランス

全体では、「内容を知っている」が43.0%、「内容は知らないが聞いたことはある」が25.5%に対し、「知らない」が28.7%となっています。前回調査との比較では、「内容を知っている」の割合が大きく増加しています。

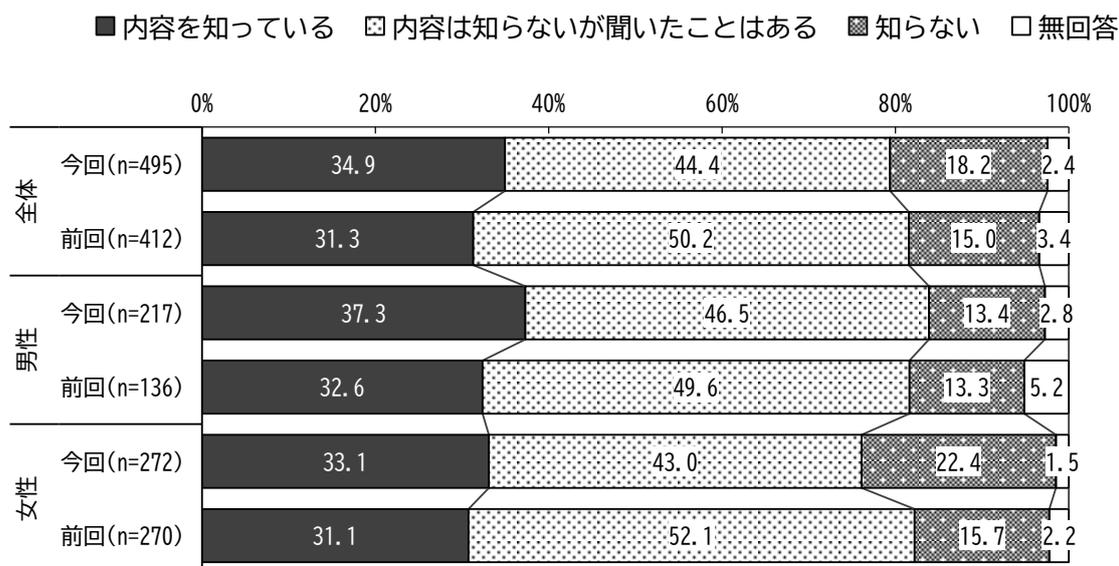
男女別の比較では顕著な差はみられないものの、前回調査と比較すると、男女とも、特に男性で認知度が上がっています。



⑤DV防止法

全体では、「内容を知っている」が34.9%、「内容は知らないが聞いたことはある」が44.4%に対し、「知らない」が18.2%となっています。前回調査との比較では、「内容を知っている」の割合が微増となっているものの、「内容は知らないが聞いたことはある」を含めた認知度はやや下がっています。

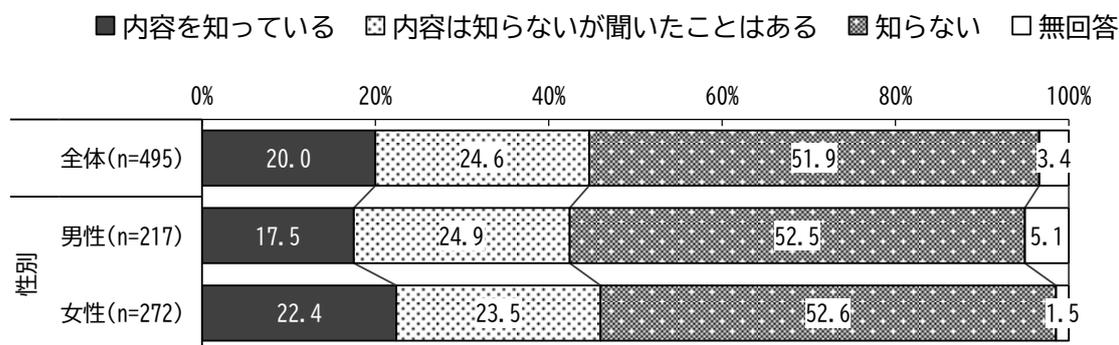
男女別の比較では、女性より男性で認知度が高く、また、前回調査と比較すると、女性の認知度がやや下がっています。



⑥デートDV

全体では、「内容を知っている」が20.0%、「内容は知らないが聞いたことはある」が24.6%に対し、「知らない」が51.9%となっています。

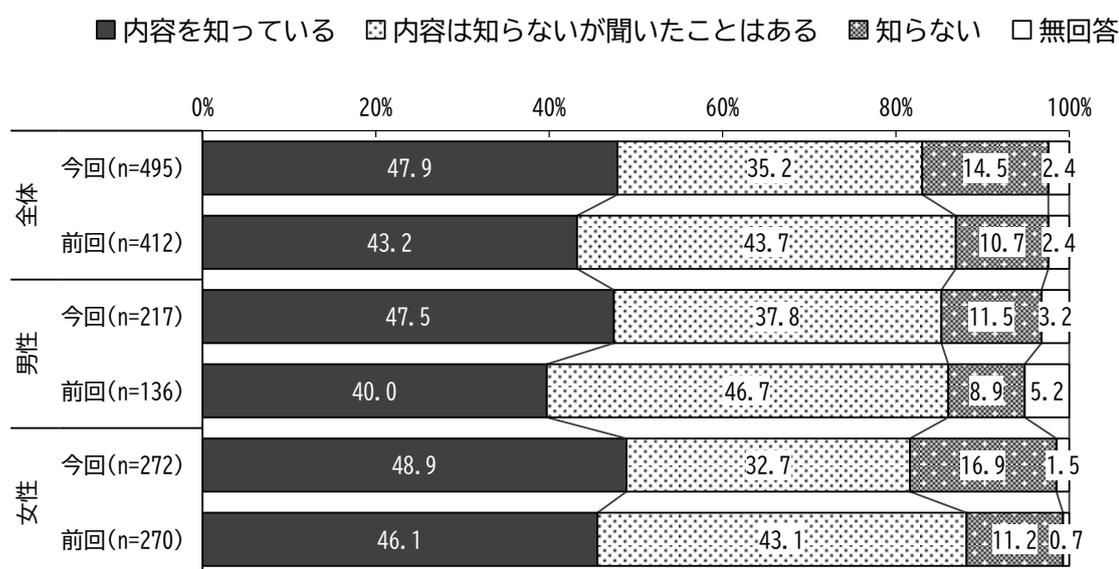
男女別の比較では、男性より女性で認知度が高くなっています。



⑦男女雇用機会均等法

全体では、「内容を知っている」が47.9%、「内容は知らないが聞いたことはある」が35.2%に対し、「知らない」が14.5%となっています。前回調査との比較では、「内容を知っている」の割合が微増となっているものの、「内容は知らないが聞いたことはある」を含めた認知度はやや下がっています。

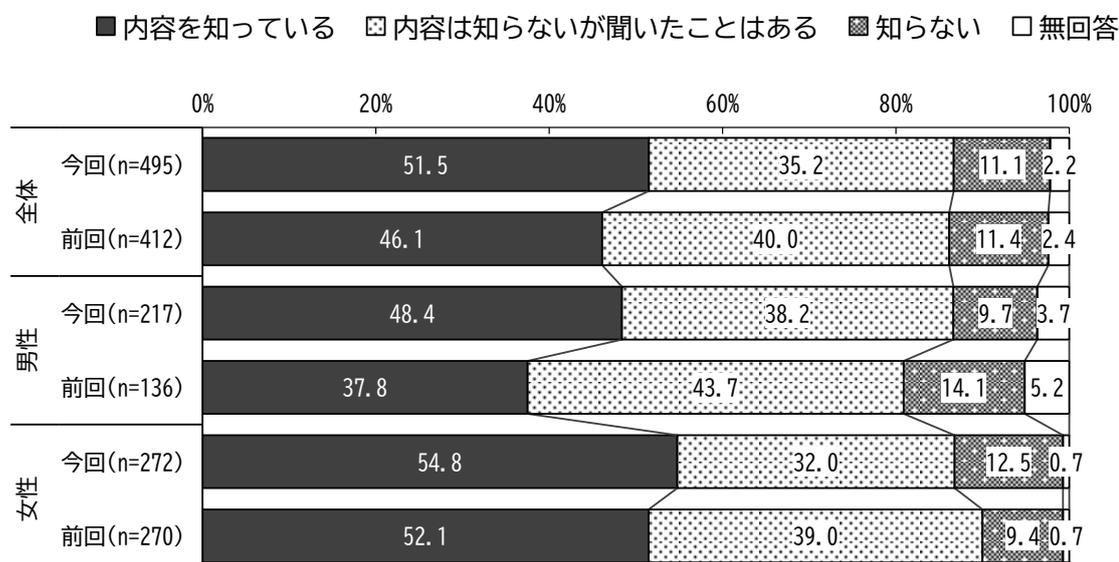
男女別の比較では、女性より男性で認知度が高く、また、前回調査と比較すると、女性の認知度がやや下がっています。



⑧育児・介護休業法

全体では、「内容を知っている」が51.5%、「内容は知らないが聞いたことはある」が35.2%に対し、「知らない」が11.1%となっています。前回調査との比較では、「内容を知っている」の割合が増加しているものの、「内容は知らないが聞いたことはある」を含めた認知度に大きな変化はありません。

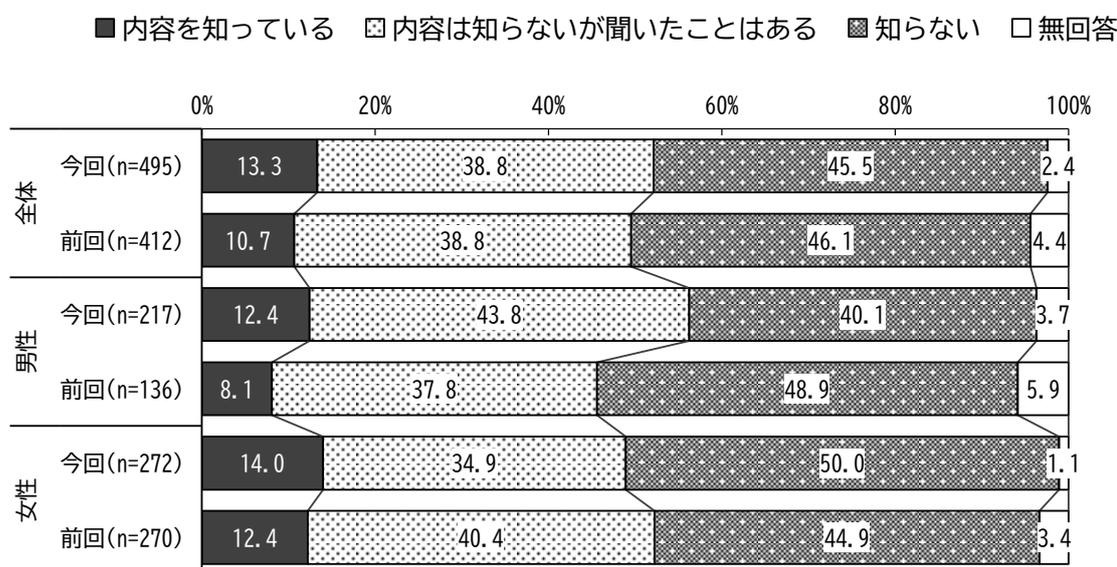
男女別の比較では、女性で「内容を知っている」に割合が高くなっているものの、「内容は知らないが聞いたことはある」を含めた認知度に大きな差はありません。また、前回調査と比較すると、男性の認知度が上がっています。



⑨女子差別撤廃条約

全体では、「内容を知っている」が13.3%、「内容は知らないが聞いたことはある」が38.8%に対し、「知らない」が45.5%となっています。前回調査との比較では、「内容を知っている」の割合が微増となっているものの、大きな変化はありません。

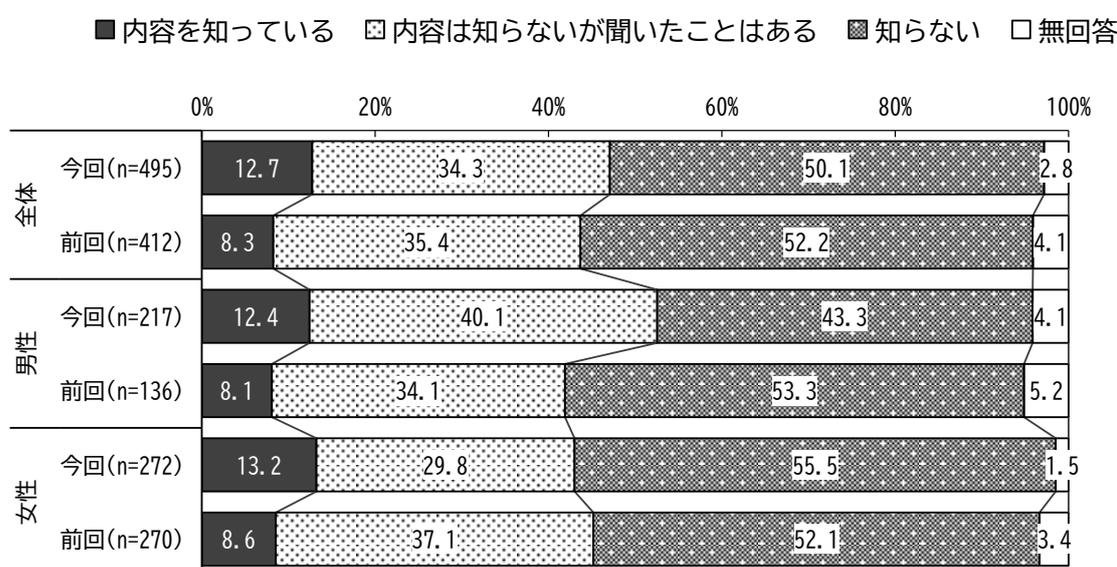
男女別の比較では、女性よりも男性で認知度が高くなっています。また、前回調査と比較すると、男性の認知度が上がっています。



⑩女性活躍推進法

全体では、「内容を知っている」が12.7%、「内容は知らないが聞いたことはある」が34.3%に対し、「知らない」が50.1%となっています。前回調査との比較では、認知度はやや上がっています。

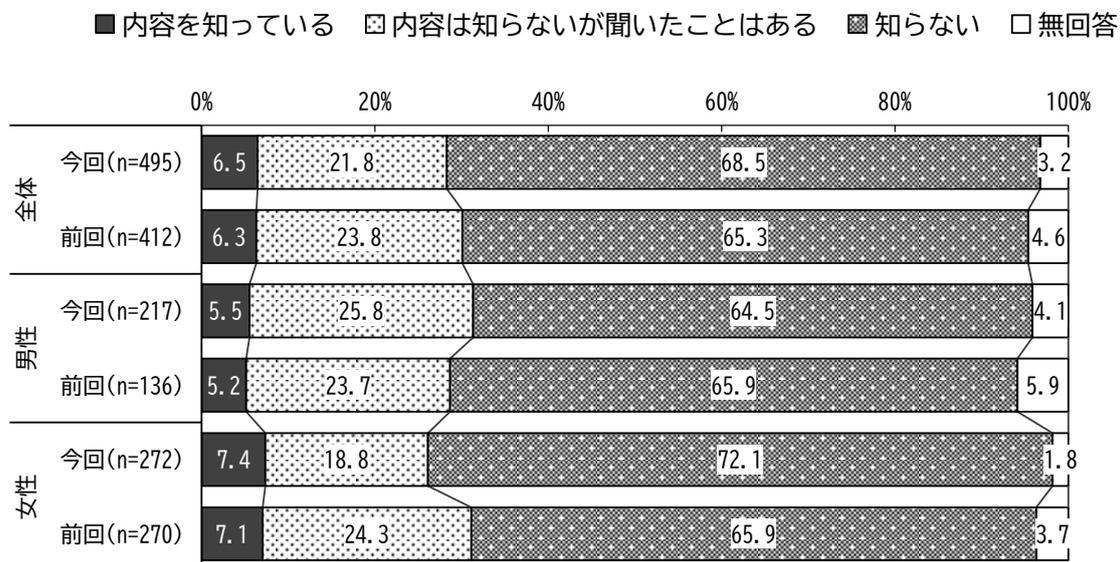
男女別の比較では、女性よりも男性で認知度が高くなっています。また、前回調査と比較すると、男性の認知度が上がっています。



⑪ ポジティブ・アクション

全体では、「内容を知っている」が 6.5%、「内容は知らないが聞いたことはある」が 21.8%に対し、「知らない」が 68.5%となっています。前回調査との比較では、顕著な差はみられません。

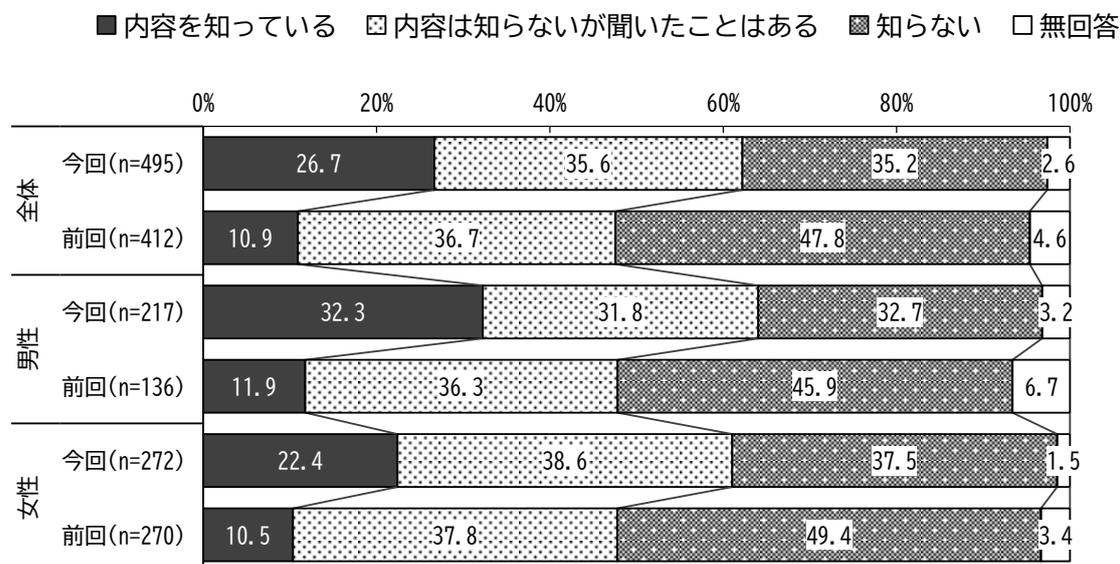
男女別の比較では、女性よりも男性で認知度が高くなっています。また、前回調査と比較すると、女性の認知度が下がっています。



⑫ ダイバーシティ

全体では、「内容を知っている」が 26.7%、「内容は知らないが聞いたことはある」が 35.6%に対し、「知らない」が 35.2%となっています。前回調査との比較では、「内容を知っている」の割合が大きく増加しています。

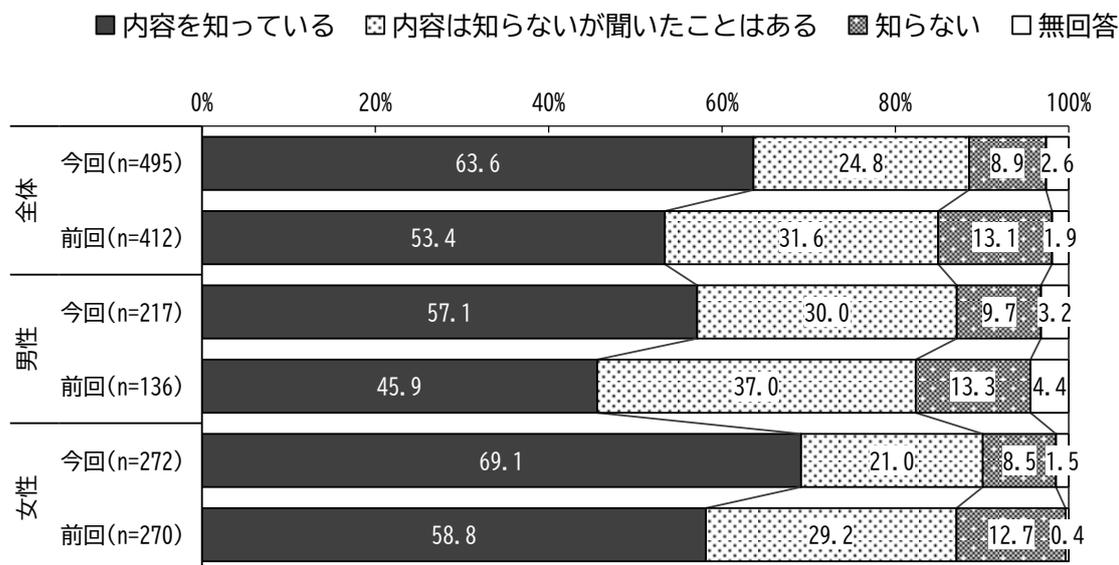
男女別の比較では、男性で「内容を知っている」の割合が高くなっています。また、前回調査と比較すると、男女とも認知度が上がっています。



⑬LGBT

全体では、「内容を知っている」が63.6%、「内容は知らないが聞いたことはある」が24.8%に対し、「知らない」が8.9%となっています。前回調査との比較では、「内容を知っている」の割合が増加し、認知度が上がっています。

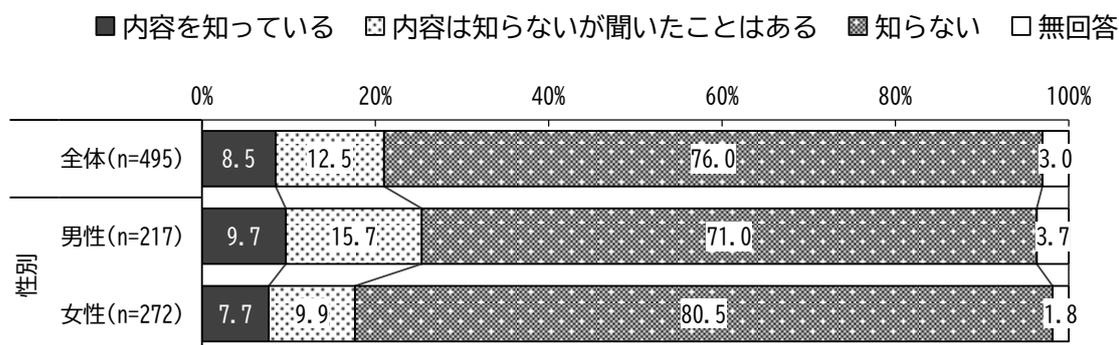
男女別の比較では、女性で「内容を知っている」の割合が高く、認知度が高くなっています。また、前回調査との比較では、男女ともに「内容を知っている」が増加し、認知度が上がっています。



⑭アンコンシャス・バイアス

全体では、「内容を知っている」が8.5%、「内容は知らないが聞いたことはある」が12.5%に対し、「知らない」が76.0%となっています。

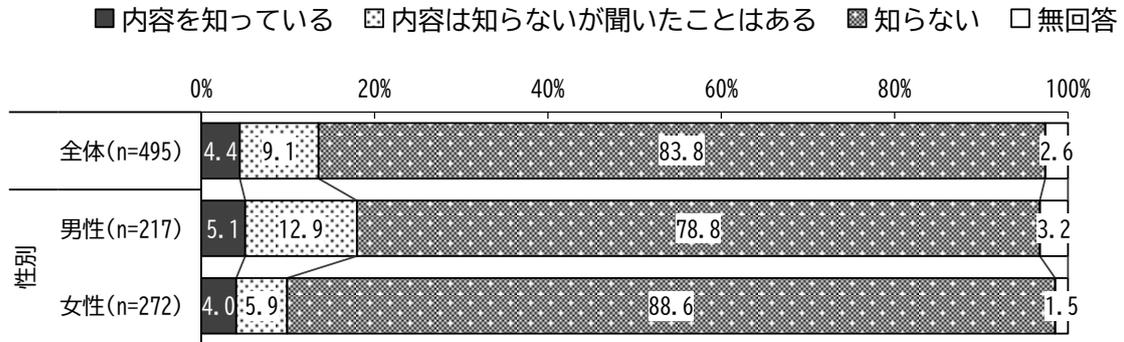
男女別の比較では、男性の認知度がやや高くなっています。



⑮リプロダクティブ・ヘルス／ライツ

全体では、「内容を知っている」が4.4%、「内容は知らないが聞いたことはある」が9.1%に対し、「知らない」が83.8%となっています。

男女別の比較では、男性の認知度がやや高くなっています。



9 自由回答

男女共同参画に関する意見等について、自由記入方式で尋ねたところ、495人中53人から58件の意見がありました。以下の表は、意見の内容別に分類したものです。

項目	件数
男女共同参画(社会)について	18
制度や行政への意見・要望等	12
性別による役割分担	8
雇用・労働環境、ワークライフバランス	6
子育てへの支援	3
男女共同参画の周知・啓発	3
女性活躍推進	2
その他	6
合計	58

◆主な意見等（抜粋）

◇男女共同参画（社会）について

- ・最近自治会では女性の方が多いようです。役員にも手を上げていますので、よくなってきているように思います。
- ・地域社会はまだまだ男女差別は残っています。昔のままの考え方を若い人にも求めることがあります。地域の活動には参加しにくくなります。
- ・平等を目指すのか、公平を目指すのか舵を取る上ではっきりと目指すものを社会で決める必要があると思います。男性の社会進出を抑える、女性の社会進出を優遇する考えは不健全な考えのように思います。努力した成果を男女関係無く平等に評価できる社会、男女問わず誰がどの分野で努力しても認める仕組みを目指す社会が健全であると思います。個人ではなく社会の単位で考える機会になりました。ありがとうございました。
- ・日本はスウェーデンに比べて政治、行政、労働関係はまだまだ低い状況にある。男女共同参画をさらに高めるためには、男性優遇をなくしていくことが必要である。またきたりや社会通念を広く無くしていく啓発活動が必要である。

◇制度や行政への意見・要望等

- ・アンケートをまとめて情報提供だけでなく、その後実現のために何をするのか具体化して、男女平等となるように頑張ってください。
- ・行政サイドから意識改革を大胆に実行するなら、他の国を真似して、職員の採用や議員選挙立候補者数の男女同数を義務付ける位の事に段階的にでもチャレンジするのはいかがですか？日本で最初の取り組み実績になりますよ。
- ・ハラスメントの講習会の実施

◇性別による役割分担

- ・家事、育児の大部分は妻が担っている。家事も男女共同作業が出来れば妻は楽になると思う。
- ・昔からの習慣などがあり、直すのは難しいかもしれません。農家などは跡取りの嫁は使用人のように扱われたり、それが当たり前のように思われ、それに従って 40 年、私も仕事をしているのだからあなたも家事をして、と言われ休みの日におかずを作るようになった旦那さんがいると聞きました。このような小さなことでも人の考え方が変わるとよくなると思います。

◇雇用・労働環境、ワーク・ライフ・バランス

- ・この問題の最大の障害になっているのが、非正規雇用問題であると考えます。非正規の 70%は女性となっており、女性の貧困が根底にある。経済的な不平等がある中で社会的な男女共同参画はあり得ない。
- ・子育てがあるので長時間労働の管理職にはなれない。子育てで一度仕事を辞めて入りなおしたので給料が低い。
- ・その家のその人自身の環境の違いでそれぞれだと思いますが、女性の妊娠期の健診、出産の費用の負担軽減、若い人でも生み育てられる環境、理解、どう頑張っても子どもを保育園に預けて体調不良の連絡は母にくる。仕事を早退する。女性とは？となる。男性の育休や家庭での役割を社会が積極的にやるべき。会社の考え方のアップデートが必要。
- ・男性の育休取得に関して、珍しいという反応をされるので、当たり前という認識の世の中になると嬉しいです。

◇子育てへの支援

- ・子どもを産みやすい、育てやすい環境を整える必要があると思います。
- ・女性が仕事を諦める場合、大きな理由は子育てだと思う。その子育て支援を強化するためにも、まずは子供を預ける施設に対する支援を強化する必要があると思う(就労環境向上、給料アップ)

◇男女共同参画の周知・啓発

- ・男女共同参画はこれからの未来をつくる保育園児からの教えが必要だと思います。立派な大人に今更と投げ出されることを前提に教える事も大切だと思います。

◇女性活躍推進

- ・女性の社会進出は大事であることは理解できるが、一方で少子化や人口減少との関連も考えて対応する必要があるのではないのでしょうか。

小美玉市男女共同参画市民意識調査 結果報告書

令和6年8月発行

小美玉市 市民生活部 市民協働課

〒319-0192 茨城県小美玉市堅倉 835 番地

T E L : 0299-48-1111 F A X : 0299-48-1199

U R L : <https://www.city.omitama.lg.jp>
